

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

小児保健医療における保健婦活動に関する研究

分担研究者 湯澤 布矢子 宮城大学副学長

研究協力者 斎藤 泰子¹⁾、高橋 香子¹⁾、下山田 鮎美¹⁾、猫田 泰敏²⁾

平野 かよ子³⁾、大野 絢子⁴⁾、一場 美根子⁵⁾、吉野 くみ子⁶⁾

平成9年度から地域保健法及び母子保健法等が全面施行され、母子保健においても市町村保健婦がプライマリ-なサ-ビスを担当し、保健所保健婦が二次的、専門的ケアを受け持つことになった。一方、小児保健に関する保健婦活動の実態については数多くの情報があるが、小児医療に関する実態はほとんど不明であった。

そこで本研究班は、平成9年度に保健所保健婦の疾患児等に関するケアの実態を調査した。又、同時に保健所の婦長相当職の保健婦に対して、母子保健専門保健婦の有無等について、及び本庁母子保健担当保健婦を対象に、主に母子保健の研修についてアンケート調査を実施した。平成10年度は、市町村保健婦がどの程度疾患児に関わっているかや、研修等について実態を明らかにした。平成11年度は、保健所と市町村の保健婦が、小児保健医療においてどのように分担連携をしていくべきかについて問題点や課題を整理した。また、小児保健医療に関する詳細な研修の実態（保健所及び市町村対象）と求められる研修ニーズについて検討した。

A. 研究目的

本年度は、小児保健医療に関する研修の実態（保健所及び市町村対象）と小児保健医療のケア上求められる研修ニーズを明らかにし、望ましい小児保健医療とそのケアを中心とした研修のあり方を検討する。また、昨年までの研究成果をふまえ小児保健医療における保健所と市町村保健婦の活動のあり方を考察する。なお、主として医療とケアの状況を調査目的とするが、保健は小児医療と不可分であるので、テーマは小児保健医療とし調査した。

B. 研究方法

1. 小児保健医療の研修に関する調査

1.1 対象

市町村保健婦に対する調査：全国3,112市町村（指定都市、中核市、政令市を除く）の中から1,000市町村を無作為抽出し、市町村の母子保健担当1名の保健婦、計1,000名に回答を求めた。

保健所保健婦に対する調査：全国640の保健所を対象に（平成11年厚生省地域保健・健康増進栄養課調べ）母子保健担当保健婦1名、計640名に回答を求めた。

本庁母子保健担当保健婦に対する調査：都道府県、指定都市、中核市、政令市、特別区の母子保健担当者117名に回答を求めた。

1.2 調査内容

市町村保健婦に対しては、市町村の属性（人口・保健婦数）母子保健担当保健婦の属性（経験年数）過去5年間の小児保健医療に関する研修受講経験・研修内容・研修形態、小児保健医療の研修のニーズである。なお、小児保健医療研修の実態と研修ニーズを聞くにあたり、対象となる疾患名については、平成9年度に国際疾病分類の疾患名を使用して実施した調査から、保健婦が50件以上関わっていた疾患名42疾患を抽出し6つの疾患群を作成して質問した。

1)宮城大学 看護学部 2)東京都立保健科学大学 保健科学部 看護学科 3)国立公衆衛生院 公衆衛生看護学部

4)群馬大学 医学部 保健学科 5)群馬県桐生保健福祉事務所 6)群馬県小児保健センター

保健所の保健婦に対しては、市町村の保健婦対象の調査項目に加えて、小児保健医療研修の企画実施の有無について聞き、企画した研修プログラムの提示を求めた。

本庁の保健婦に対しては、本庁企画の小児保健医療研修の有無、研修内容、臨床実習の有無について聞いた。また、企画した最新の研修プログラムの提示を求めた。

1.3 調査方法

郵送による自記式質問紙調査

1.4 調査期間

平成 11 年 11 月 8 日～26 日

2 . 小児保健医療における保健婦のあり方の検討

平成 9、10 年度と実施した「小児保健医療における保健婦のあり方に関する研究」結果と、今年度実施の「小児保健医療に関する研修実態と研修二 - ズ調査」の自由意見等を参考にしながら、研究協力者間で検討した。

C . 研究結果

<小児保健医療の研修に関する調査>

保健所・市町村に対するアンケート調査の結果

1.各アンケート回収状況

対象の回収状況は、表1のとおりであった。

2.回答者の属性

構成割合（図1）は、保健所・市町村ともに、全国の管轄人口別保健所内訳、全国3,112の市町村の人口別内訳と同様の構成であった。

回答者の保健婦経験年数（図2）は、保健所保健婦は経験年数20年以上のものが117（32.5%）と最も多く、経験年数の多いものが多かった。反して市町村保健婦は、経験が1～4年のものが183（29.9%）と最も多かった。

保健婦数別保健所・市町村数（図3）では、保健所は、保健婦数5～9人のところが195（全体の54.3%）と半数以上を占めていた。市町村は、保健婦数1～4人のところが346（56.5%）で最多であった。

3.母子保健業務の担当体制（図4）

母子保健業務の専任・兼任状況をみると、保健所に母子保健専任がやや多い傾向にあった。

4.小児保健医療に関する研修の受講経験・受講回数

過去5年間の研修受講経験（図5）は、「受講

あり」が、保健所306（85.2%）、市町村516（84.6%）と同様の受講状況であった。

研修受講回数（表2）については、従来の母子保健研修と小児医療（疾患・障害児のケアに関するもの）に区別して回答してもらった。母子保健に関する研修の受講割合・回数とも、市町村保健婦に多い傾向がみられた。

5.受講した研修の実態

1)疾患名別受講者割合

研修受講疾患名をきくにあたっては、平成9年度に国際疾病分類を使った調査で「保健婦が50件以上かかわっていた疾患名42疾患を抽出し（表3）これを図6のように6つの疾患群に分類した。

疾患群別受講者割合（図6）をみると、.先天奇形・変形に関するもの、.出生時の異常に関するもの、.小児慢性特定疾患に関するもの、.虐待症候群については、保健所保健婦の受講者割合が多く、.身体の疾患に関わるもの、.精神・発達の障害に関するものについては、市町村保健婦の受講者割合が多かった。特に小児慢性疾患に関しては、市町村と保健所の受講者割合に有為な差がみられた（ $p=0.000$ ）。

2)疾患群別の研修内容の違い（表4、5）

研修の内容については、平成9年度に実施した調査から保健婦が感じる援助上の困難点としてあげられた知識・技術をもとに、ケアシステムの構築方法・手段を改めて加えて、回答してもらった。

結果は、保健所、市町村ともからの疾患群すべてにおいて、疾病障害に関する知識にかかわる研修内容であったとしたものが多く、同じように.虐待症候群を除いたからの疾患群では、治療・リハビリに関する知識の研修内容が多い。

精神・発達の障害に関する疾患群では、他の疾患群と比較してカウンセリング技術が多い（保健所9.2%、市町村10.5%）。

先天奇形・変形に関する疾患群では、保健所に比べて市町村の方が医療処置に関する技術の研修内容がやや多い傾向であった（保健所6.2%、市町村10.6%）。

小児慢性特定疾患に関しては、保健所・市町村共に、疾病障害に関する知識、治療・リハビリに関する知識にかかわる研修内容が多く、ケアシステムの構築方法・手段が少ない傾向にあった。また、他疾患群と比べると、保健所では

社会資源に関する知識が、市町村では カウンセリング技術が少ない傾向にあった。

虐待症候群に関しては、関係機関との連携が他の疾患群と比較して多い（保健所 22.7%、市町村 19.9%）。また、他の疾患群に比べて ケアシステムの構築に関する内容がやや多い傾向がみられた（保健所 10.4%、市町村 7.3%）

3)疾患群別の研修形態の違い（表 4、5）

研修形態では、から の疾患群すべてにおいて、講義形式が多いとの回答であった。

事例検討会は、精神・発達の障害に関する疾患群が保健所 21.4%、市町村 20.6%と、他の疾患群と比較して多くなっていた。

臨床実習は、保健所では、出生時の異常に関する疾患群 9.4%と、小児慢性特定疾患に関する疾患群 10.9%で、他の疾患群に比べて多く、市町村では、先天奇形・変形に関する疾患群が他の疾患群より多くなっていた（5.6%）

6.今後研修で取り上げてほしい疾患名（図 7、表 6）

保健所・市町村双方とも、精神・発達の障害に関する疾患群の希望が多い。保健所は、小児慢性特定疾患に関する疾患群が第 1 順位ではないが総数としては市町村より多く上がっていた。また、虐待症候群も保健所での要望が高い傾向であった。市町村は、身体の疾患に関わる疾患群、精神・発達の障害に関する疾患群の希望が多かった。

7.希望する研修内容（表 7）

保健所保健婦では、疾病障害に関する知識、治療・リハビリに関する知識、カウンセリング技術、家族への対応、関係機関との連携方法の順に希望が多く、市町村保健婦は、疾病障害に関する知識、治療・リハビリに関する知識、カウンセリング技術、関係機関との連携、家族への対応の順になっており、希望する研修内容は保健所、市町村とも同じであったが、その順位に若干の違いがみられた。

8.希望する研修形態

保健所・市町村とも、講義、事例検討会、臨床実習の順の希望で変わりがなかった。その他として、グル- プワ- ク、シンポジウム、ロ- ルプレイ、療育グル- プの見学があがっていた。

9.研修以外に知識や技術を得る手段・方法（表 8）

疾患児や障害児等ケアを要する小児を援助する際の疑問や困難の解決方法としては、保健所保

健婦は、事例の担当医または専門医に相談する、先輩保健婦に相談する、自分で専門書から勉強するの順であったが、市町村保健婦は、先輩保健婦に相談する、事例の担当医または専門医に相談する、専門の電話相談にかけるとなっていた。保健所では、専門の電話相談にかけるとは 10.0%であり差がみられた。

10.保健所における小児保健医療に関する研修の企画・実施状況（表 9、10）

小児保健医療に関する保健所での研修企画・実施状況（表 9）については、企画・実施していた保健所は、全体の 74.7%であった。

企画・実施している研修の形態は、表 10 のとおりである。臨床実習は 5ヶ所が実施しており、回答した中の 1.4%であった。

11.保健所における小児慢性特定疾患の給付窓口体制について（表 11、12）

保健婦が医療費申請の直接窓口（表 11）になっているのは、28.4%であり、53.8%は、事務職の対応であった。

保健婦による申請時面接（表 12）は、91.7%が実施していた。

12.自由記載については、表 13、14 のとおりであった。

本庁に対するアンケート調査の結果

1.アンケート回収状況

回収状況は、表 15 のとおりであった。中核市、政令市、特別区の回収状況があまりよくないのは、本庁に保健婦が配属されていない結果と思われる。

2.小児保健医療に関する研修の企画・実施状況（表 16、17、18）

平成 9 年の地域保健法施行以降の研修企画・実施状況についてきいたところ、実施しているが、59（74.7%）であった。研修の種別では、母子保健に関するものが 51（86.4%）に対して、疾患・障害児のケアに関するものが 43（72.9%）であった。実施回数は、母子保健が平均 10.2 回、疾患・障害児のケアに関するものが 5.7 回であった。実施日数は、1~4 日が 55.8%と一番多い。

3.研修の疾患群別企画・実施状況（図 8）

本庁が研修でとりあげた疾患は、疾患群で見ると、精神・発達の障害に関する疾患群、小児慢性特定疾患に関する疾患群、身体の疾患に関する疾患群、出生時の異常に関する疾患群、虐待症候群、先天奇形・変形に関する疾患群の順に多かった。

保健所、市町村における研修受講状況と比較すると、小児慢性特定疾患に関する研修では、本庁での企画・実施割合は 22.9%であったが、保健所、市町村の受講割合はそれぞれ 16.4%、市町村 7.8%となっており、有為な差がみられた（保健所： $p=0.015$ 、市町村： $p=0.000$ ）。

逆に、虐待症候群については、有意差はみられなかったが、本庁の企画・実施割合 9.9%に比べ、保健所、市町村の受講割合はそれぞれ 13.5%、11.9%と多い傾向にあった。

4.「疾患児・障害児のケア」を主テーマとした研修における臨床実習の有無および実習期間（表19）

研修を実施しているとした 43 カ所のうち、臨床実習なしが 29（67.4%）、臨床実習ありが 14（32.6%）であった。臨床実習の期間は 3 日が一番多かった。平成 9 年、10 年度に本庁企画の研修の受講対象である市町村と保健所の保健婦に、受講した研修の臨床実習についてきいたが、それとほぼ同じ割合になっている。

本庁、保健所で実施した小児保健医療に関する研修プログラム

表 20～22 のとおりであった。県、保健所、市で実施しているプログラムの提示があったが、検討は来年度に行う予定である。

D. 考察

1.保健所および市町村保健婦に対するアンケート調査

保健所、市町村ともにアンケートの有効回収状況は、保健所 359（56.1%）、市町村 612（有効回答率 61.2%）であった。回答者の属性として、人口規模別構成割合は、保健所・市町村とも全国の管轄人口別保健所内訳と市町村人口別内訳と同様の構成であり、各母数を代表する意見として妥当であると思われる。また、回答者の保健婦経験年数は、市町村は経験年数 1～4 年の比較的若い保健婦が母子担当であり、保健所は 15 年以上の経験のあるものが母子担当である場合が 51.1%と半数を超えていた。母子保健業務の担当体制は、保健所・市町村ともに他業務との兼任体制が多く、保健所において疾患児・障害児のケアを担当するのは「小児慢性特定疾患を含む難病担当」との兼任が考えられた。市町村の母子業務専任割合が少ないのは、平成 12 年 4 月実施の「介護保険担当」に保健婦の人手が廻っている結果であると思われる。

1.1 小児保健医療に関する研修の受講経験

保健所・市町村ともに、従来からの母子保健研修を含む「小児保健医療」に関する研修の受講経験は、85.2%、84.6%と多かった。疾患・障害児に関する研修を区別して回答してもらったものでは、市町村保健婦に母子保健研修受講が多かった。これは、平成 9 年の母子保健業務の市町村への全面移行に伴い、研修の受講機会が多くなっている結果と考えられる。同時に、保健所は、二次的・専門的役割を担うことになったが、まだ、疾患・障害児のケアに関する研修より母子保健に関する研修が上回っており、保健所の保健婦対象の疾患・障害児のケアに関する研修の実施が望まれるところである。

1.2 受講した研修の実態

< 受講した研修の対象疾患 >

疾患・障害児のケアに関する研修の受講状況について、疾患群別にみると、保健所と市町村には違いがみられた。・先天奇形・変形に関するもの、・出生時の異常に関するもの、・小児慢性特定疾患に関するもの、・虐待症候群については、保健所保健婦の受講が多く、特に小児慢性特定疾患については有為な差がみられた。市町村保健婦では、・身体の疾患に関わるもの、・精神・発達の障害に関わるものの受講が多かった。このことから、プライマリ・な疾患群については市町村保健婦が研修を受講し、小児慢性特定疾患や先天奇形、出生時の異常など、二次的・専門的ケア及び保健・医療・福祉の総合的なかわりが必要とされる疾患や、最近多く顕在化している虐待の事例への関わりについては、家族・児童相談所・警察・弁護士など関連機関との連携が広域的に求められることもあり、保健所保健婦が多く研修を受講していたものと思われる。

< 研修内容 >

6 つの疾患群別に受講した研修の内容について、平成 9 年度に実施した調査から、保健婦が感じる援助上の困難点としてあげられた知識や技術を、10 項目に分類して回答してもらった。6 つの疾患群すべてにおいて、疾病・障害に関する知識にかかわる研修と治療・リハビリに関する研修が多かった。精神・発達に関する疾患群ではカウンセリング技術が多く、虐待症候群に関しては関係機関との連携方法、ケアシステムの構築に関する内容が多い傾向にある。これは各疾患群に関わる際に当然必要とされる知識と技術に研修内容が整合しているといえる。小児慢性特定疾患に関しては、

保健所・市町村ともに疾病に関する知識や治療・リハビリに関する知識といった内容が多く、稀な疾患も多いことから、病態や経過、予後といった疾病そのもの、治療やリハビリはどうあるのかといったものを受講している。今後、保健婦の小児慢性特定疾患への関わり次第で変化するであろうと思われる。

<研修形態>

研修形態は、6つの疾患群すべてに講義形式が多かったが、精神・発達に関する疾患群は事例検討会といった形式が比較的多く、今後疾患群もしくは、対象とする疾患・障害によって、より効果的な研修形態をとっていくことが望まれる。出生時の異常や、小児慢性特定疾患、先天奇形等の疾患群については臨床実習が取り入れられており、この疾患群を対象とした研修では、疾患・障害児の実態を実際に知ること、実際のケアの方法に熟達すること等を含め、ひき続き臨床実習は必要であると思われる。

1.3 研修の二 - ズ

今後とりあげて欲しい疾患名としては、保健所・市町村双方とも精神・発達に関する疾患群の希望が多かった。これは平成9年度実施の調査で明らかとなったとおり、保健婦が関わる事例数が非常に多いことが背景にあると考えられる。同様に平成9年度の調査で、低出生体重児や極小未熟児等への保健婦の関わりは大変に多いが、これらについての研修二 - ズは少なかった。つまり、保健婦は家族や周囲を含めて低出生体重児等へのかかりにはもはや自信をもっており、研修に関して常に新しい二 - ズをもっていることが確認された。新たな二 - ズとしては、保健所では、小児慢性特定疾患に関するもの、虐待症候群が現在の研修二 - ズ対象疾患であり、市町村では、先にあげた精神・発達に関する疾患に対するもの、身体疾患に関するものであると考えられた。

研修の内容については、保健所・市町村保健婦双方において、各疾患群ともに疾病・障害に関する知識、治療・リハビリに関する知識、カウンセリング技術、家族への対応、関係機関との連携方法に関する研修を希望していた。このことは、保健所、市町村どちらにおいても、保健婦には事例への直接的なきめ細やかな対応とともに、疾患・障害児をとりまく地域ケアのしくみづくりが役割期待されていることを示しているものと思われる。

研修以外の知識・技術獲得の手段としては、保健所保健婦が、直接主治医や専門医に相談するが

多かったのに比べ、市町村保健婦は、先輩保健婦に相談するがもっとも多く、専門の電話相談や専門医に相談する割合も多かった。このことは市町村保健婦にとって小児保健医療に関して身近に相談する人的社会資源が少ないことを表しており、研修の量・質の充実とともに、専門機関からのインターネット等による疾患・障害児のケアに関する情報の提供体制の整備も望まれる。

2. 本庁保健婦と保健所保健婦に対する研修企画状況等についてのアンケート調査

本庁の母子保健を担当する保健婦と、平成9年の地域保健法の施行によって管轄市町村への教育研修機能の充実が課せられた保健所の母子担当保健婦を対象に、主に小児医療に関する研修の企画状況について調査した。本庁（74.7%が実施）、保健所（74.7%が実施）が示すとおり多くの企画がなされている。最新プログラムの提示を求めたところ、総数126件のプログラムの送付があった。この中で純粋に小児医療に関する研修は、55件であったが、研修テーマ・対象とする疾患名・研修講師・研修内容・研修形態を検討する上で貴重な資料であると考えている。（表20～22）

2.1 本庁レベルでの企画状況と市町村・保健所の研修受講状況

本庁研修で取り上げている疾患群は、精神・発達の障害に関する疾患群、小児慢性特定疾患に関する疾患群、身体疾患に関わる疾患群がそれぞれ20%以上と多かったが、保健所や市町村の受講割合にはずれがあった。特に、小児慢性特定疾患に関する疾患群では、企画割合が22.9%に対して、受講割合は保健所16.4%、市町村7.8%と非常に少なかった。まだまだ小児慢性特定疾患に関する研修が行き渡っていない状況があると思われる。逆に、虐待症候群については、本庁企画は9.9%であるが、保健所・市町村の受講割合はそれぞれ13.5%、11.9%と多い傾向にあった。虐待事例は、4ヶ月・1歳6ヶ月・3歳児等の乳幼児健康診査の場で保健婦が発見者となる例も多いこと、その上最近はマスコミ等で話題になることが多く、保健所や市町村レベルでの研修や行政企画以外の研修を多くの保健婦が受講しているものと思われる。本庁レベルにおいては、時代の二 - ズを先取りした研修の企画、本庁と保健所との研修を企画する際のすみわけと役割分担が求められている。

2.2 臨床実習に関して

今回、本庁と保健所実施の小児医療に関する研修について臨床実習の有無をきいたところ、臨床実習をしていたのは、本庁（32.6%）、保健所（1.4%）と少ない結果であった。本庁に関しては、平成9、10年度に本庁企画の研修受講対象である保健所・市町村保健婦に受講した研修の臨床実習の有無について聞いたものとはほぼ同じ割合になっていた。すべての小児医療研修について臨床実習を課す必要はないと考えるが、小児慢性特定疾患に関する疾患群と身体の疾患に関する疾患群、精神・発達に関する疾患群、先天奇形・変形に関する疾患群については、本庁レベル研修で臨床実習がなされている割合が多かったことから、今後は臨床実習が不可避である疾患群を明確にし、臨床実習のあり方について更に検討を深める必要があると考える。現時点では、先にあげた疾患群の対象疾患に対して、まず、主要な看護技術が共通する疾患について臨床実習を行う方法があげられる。これには、脳性小児麻痺、筋ジストロフィー、極小未熟児、重症先天奇形などが入ると考えられる。医療機器装着の可能性が高い疾患に対して臨床実習を行う方法：人工呼吸器や人工肛門装着、経管栄養の必要な疾患群に対して考える。として、家族ケアやカウンセリングの必要な疾患群、例えば自閉症、重症心身障害を伴う疾患について、という3つの枠で臨床実習の研修適応について考えることを提言したい。

E．結論

- 1．小児保健医療に関する保健所・市町村保健婦の研修ニーズは高い。
- 2．希望する対象疾患は、保健所では、自閉症や精神遅滞といった精神・発達に関する疾患、成長ホルモン欠損症、インスリン依存性糖尿病、気管支喘息等の小児慢性特定疾患、虐待症候群への希望が高く、市町村においては同じく精神・発達に関する疾患、脳性麻痺や感音難聴、アトピー性皮膚炎等身体疾患に関するものが多かった。
- 3．希望する研修内容は、保健所・市町村保健婦とも疾病障害に関する知識、治療リハビリに関する知識、カウンセリング技術、家族への対応、関係機関との連携方法が多かった。
- 4．受講した研修内容と疾患群との関係から、疾患群毎に必要な保健婦の援助の特徴が示唆された。（例：精神・発達に関する疾患群や虐待症候群 - カウンセリング技術・家族への対応・関係機関と

の連携方法、小児慢性特定疾患 - 疾病障害に関する知識・治療リハビリに関する知識）

5．研修の形態については、臨床実習を含め、他職種を交えた事例検討会などが検討課題である。

6．研修を補完する方法として小児医療専門機関・保健所と市町村を結ぶインタ - ネットの利用等情報提供体制の整備が望まれる。

<小児保健医療における保健婦活動のあり方の検討>

小児保健医療における保健婦活動は、わが国の保健婦活動が主として母子保健から発祥していること、及び母子保健の特性上、保健婦独自で対応することが可能な分野も多いことなどから、長年にわたって、保健所及び市町村保健婦が役割分担を明確にしないまま渾然一体となって活動を展開してきた。さらに、昭和40年の母子保健法制定以降も、3歳児健診は保健所が主体とされたし、昭和52年に制定された1歳6ヶ月健診は市町村の業務となっていたので、筆者らが行った厚生省心身障害研究「母子保健における保健婦活動の効率的展開に関する研究（平成3年報告書）」の中でも明らかにしたように、保健所と市町村の保健婦が現場レベルで協議しながら、さまざまな共同活動が実施されてきたのである。

しかし、平成9年度から地域保健法や母子保健法の改正により、母子保健における保健所と市町村の役割が明確に示され、保健婦にとっても大きな変革の時期を迎えることとなった。

そこで、当班は先述したとおり、特に小児医療を必要とするような高度で困難な疾患児や障害児のケアが、第一線でどのような実態にあるのかを3年にわたり調査検討してきた結果、現場の保健婦活動のあり方を検討する上での課題、或いは問題点を次の7項目に整理した。

1)小児保健医療における保健婦活動のあり方を検討する上での課題

平成9年度から新体制で母子保健活動が実施されているが、我々の研究でみると、二次的専門的ケアを必要とするような小児にも、市町村保健婦がかなりタッチしている。（平成10年度報告書）

保健所は、組織改革等により再編統合されて管轄地域が拡大し、直接サービスを実施しにくくなった（非効率的）

さらに、保健婦の配置が各業務別の係り等に分

散して、母子保健専門(担当)の人数が減少した。

保健所と福祉事務所との統合により保健福祉センターになったところが多く、保健婦の業務が複雑多様化し、また拡大した。

介護保険の施行を控えて、市町村保健婦の業務量が増大し、介護保険担当になる者も増えている。当然保健婦の増員が必要になるが、国レベルの予算では地方交付税の中に措置してあるにもかかわらず、増員数が少ない。

医療依存度が高い児は、保健婦が支援する以前に転帰を迎えることが多い。この問題は複雑で、たとえば保健婦がタッチする前に死亡してしまうとか、医療主体で経過する、或いは主治医が保健婦の介入を好まない等の問題がある。

小児慢性特定疾患の医療給付申請窓口では、担当が保健婦でない場合も多く、小児の情報が保健婦に提供されるか否かについては、機関によるばらつきがみられる。

以上述べたように、保健所、市町村の分担を法的に明確にしても、効率的な活動システムにはまだまだ困難な現状にある。

2)小児保健医療における保健婦活動のあり方について

これについては、本年度調査した研修の詳細な結果も加味して、引き続き検討していきたい。また、総括的な保健婦の役割に関しては、従来から多面的かつ膨大に検討されているといっても過言ではない。平成10年4月10日には「地域における保健婦及び保健士の保健活動について」という厚生省保健医療局長通知と地域保健・健康増進栄養課長通知、及び「保健活動指針、(保健指導官)」が出ている。この通知の基になった平成8年度厚生科学研究「これからの行政組織における保健婦活動のあり方に関する研究(平成9年3月、代表湯澤布矢子)」の中で、保健婦の機能として 実態把握(地域診断)機能、 計画策定・評価機能、 相談・支援機能、 教育・普及機能、 調整・ネットワーク機能、 システム化・施策化機能、の6つがあげられており、そのフローチャートとして図9のように示されている。

小児保健医療における保健婦の機能も基本的には同様であることは無論だが、特に重要なことは、保健婦の直接的ケアのみを偏重することなく、その地域における保健・医療・福祉等の連携システム、即ち地域ケアシステムを確立していく推進役になることが、保健婦の重要な専門性となろう。

こうした視点にたって、現時点では以下の項目

に配慮していくことが重要である。

地域においてケアが必要な児に関する情報システムの整備。

小児保健医療における保健婦活動のスーパーバイザーの育成。

保健所の保健福祉サービス調整推進会議及び市町村の高齢者サービス調整チーム等の対象を、高度な疾患児や障害児にまで拡大するか、これに類した調整会議を編成して、児のケアの効果的な推進と保健所、市町村の連携分担をスムーズにする。

最終的には地域ケアシステムを確立するよう、社会資源の総力を結集する。

保健婦が政策や施策に関与し、質の高い活動を展開していくためには、組織の中で保健婦が主要なポスト(課長以上)を担っていくことが望まれる。

研修の充実と自己啓発、生涯教育、また高度専門職業人をめざして大学院等で資質の向上を図る。

おわりに

以上、小児医療を必要とする疾患児や障害児等に対する保健婦活動の実態(平成9、10年度)及び活動を展開する上での研修の開催状況及びニーズ等について詳細な情報を把握できた。来年度はこれらの実態に基づき、効果的な研修プログラムの策定と、可能ならばモデル的に研修を実施して、プログラムの評価検討を行いたいと考えている。

参考文献

- 1) 柳澤正義監修、神谷齊編集：小児慢性特定疾患療育育成指導マニュアル、診断と治療社、1999。
- 2) 湯澤布矢子、高橋香子、安齋由貴子、斎藤泰子、他：『小児保健医療における保健婦の役割に関する研究』、宮城大学看護学部紀要、1999。
- 3) 湯澤布矢子、安齋由貴子、高橋香子、片岡ゆみ、斎藤美華、大室鮎美、斎藤泰子、他：『小児保健医療における保健婦(士)活動に関する研究(第2報)』宮城大学看護学部紀要、2000。
- 4) 湯澤布矢子他：『これからの行政組織における保健婦活動のあり方に関する研究』平成8年度厚生科学研究報告書、1996。
- 5) 湯澤布矢子他：『母子保健に関する保健婦活動の効率的展開に関する研究』平成3年度厚生科学研究報告書、1991。

表1 保健所、市町村におけるアンケート回収状況

	対象数	回収数(率)	有効回答数(率)
保健所	640	360 (56.3)	359 (56.1)
市町村	1000	612 (61.2)	612 (61.2)

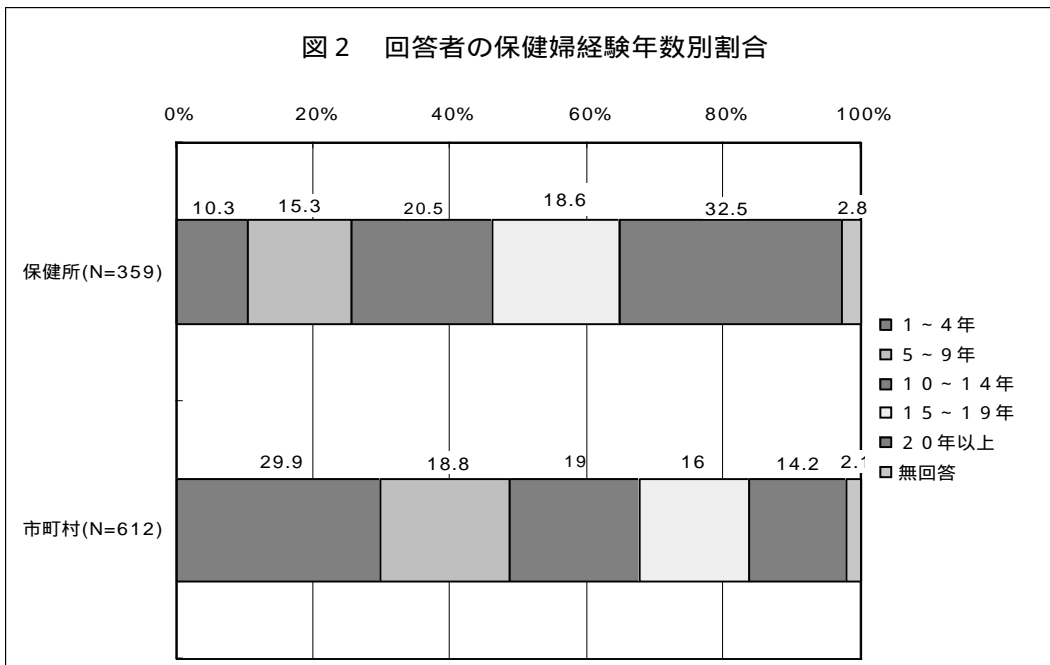
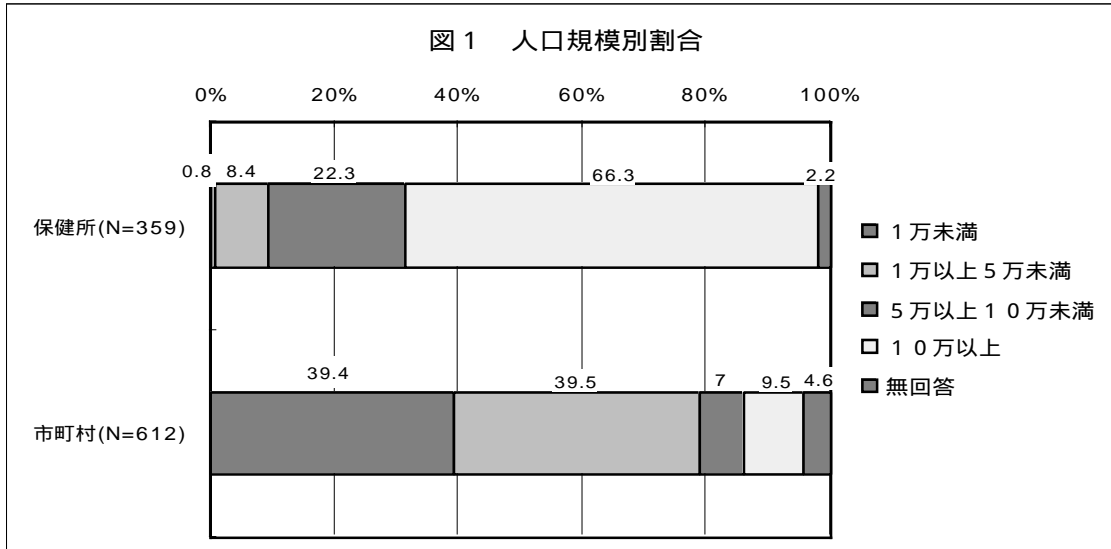


図3 保健婦数別割合

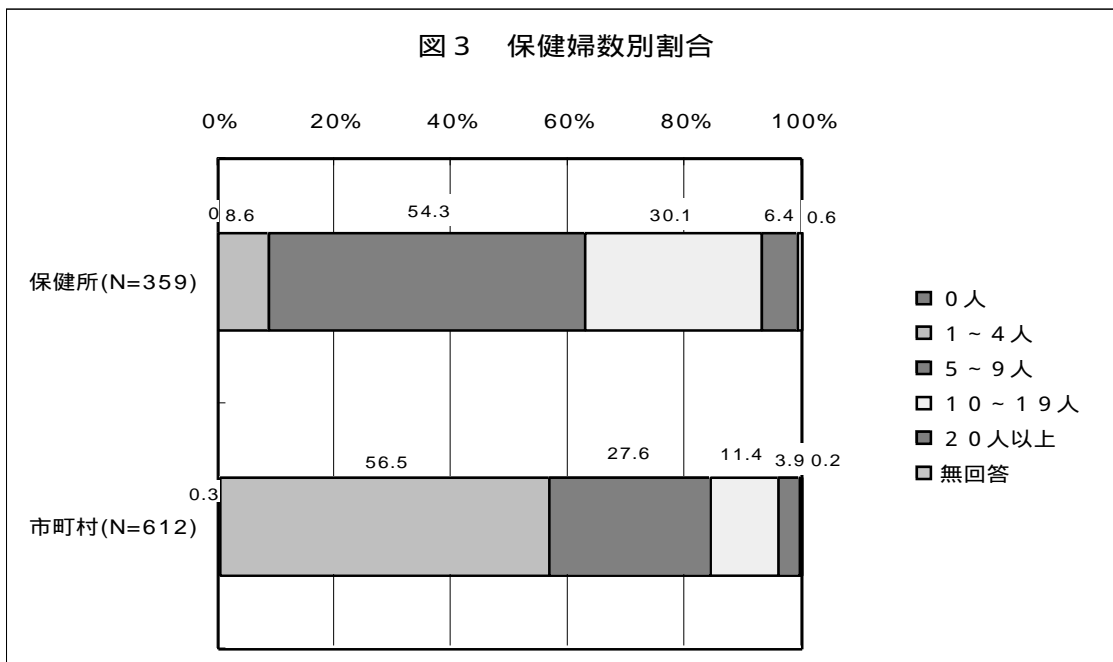
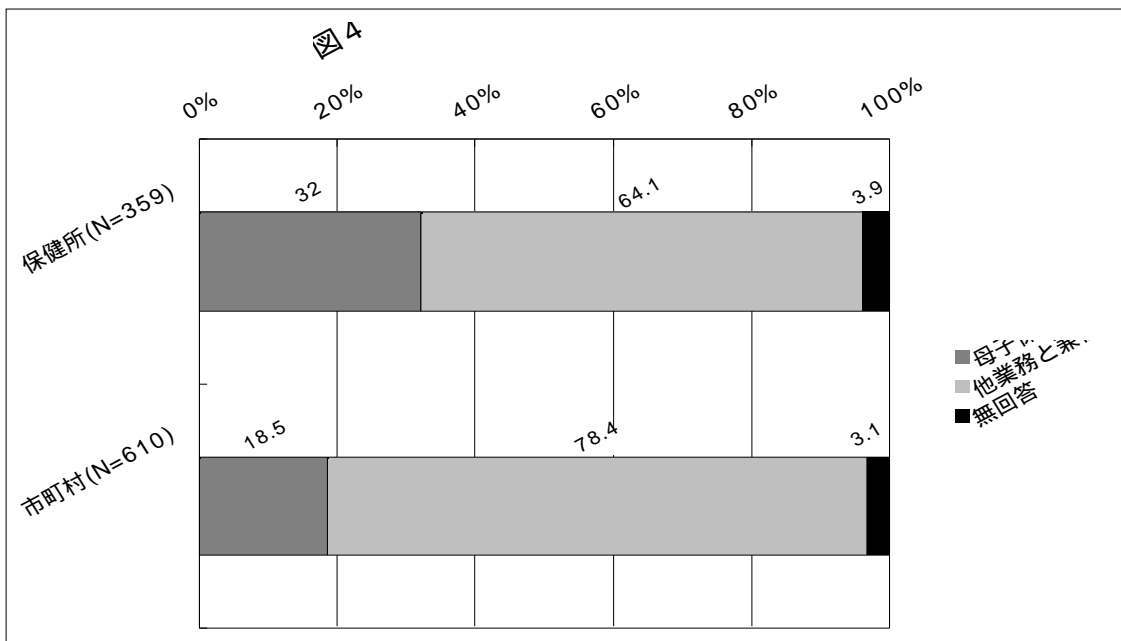


図4



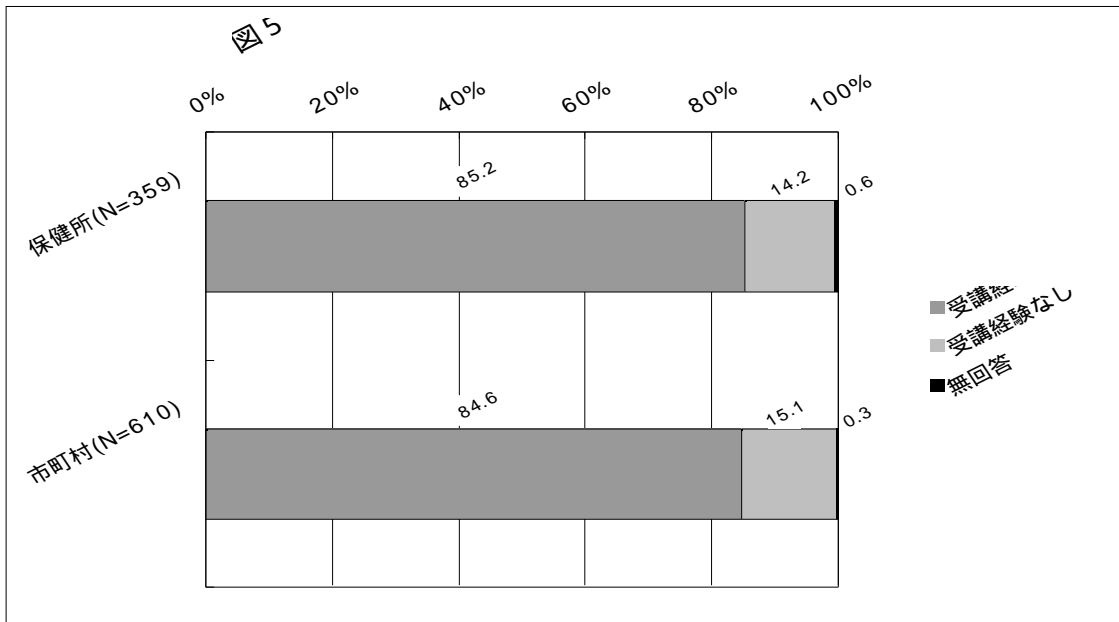


表2 研修の種別及び受講回数

(複数回答)

	保健所 (N=306)			市町村 (N=516)		
	人数(%)	受講回数	平均受講回数	人数(%)	受講回数	平均受講回数
母子保健に関するもの	259 (84.6)	1207	4.7	479 (92.8)	2961	6.2
疾患・障害児のケアに関するもの	238 (77.8)	1035	4.4	391 (75.8)	1622	4.2
その他	53 (17.3)	349	6.6	49 (9.5)	147	3.0
計	550	2591	4.7	919	4730	5.2

保健所その他：組織育成、遺伝相談、未熟児医療、環境ホルモン、救急医療等

市町村その他：健診技術、予防接種、歯科保健、周産期医療等

()内は、受講経験者数に占める割合を計上した

表3 保健婦が担当した専門的ケアを必要とする小児の疾患名・件数・担当保健婦数（平成9年度保健所保健婦実態調査より抜粋）

疾病分類	疾患名	件数
総数		8090
感染症及び寄生虫	腸チフス 細菌性赤痢 O ₁₅₇ 感染症 結核 結核性胸膜炎 結核性肺膜炎 結核性髄膜炎 粟粒結核 猩紅熱 先天梅毒 ウィルス性髄膜炎 B型肝炎 ケジラミ症 その他	20 9 511 62 1 556 6 4 1 1 1 2 2 2 12
悪性新生物	消化器の悪性新生物 呼吸器・胸腔内臓器の悪性新生物 骨肉腫 四肢の骨・関節軟骨の悪性新生物 Wilms腫瘍 乳房・生殖器・尿路の悪性新生物 網膜芽腫 眼・聴覚・脳・脊髄・脳神経の悪性新生物 神経芽細胞腫 精細胞腫 急性リンパ性白血病 急性骨髄性白血病 慢性骨髄性白血病 その他	3 2 1 1 5 2 2 18 87 2 29 12 2 2
血液・造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血 遺伝性球状赤血球症 血友病 突発性血小板減少性紫斑病 重症複合型免疫不全症 ウィスコット・アルドリッチ症候群 その他	9 3 3 8 45 2 2 9
内分泌・栄養及び代謝疾患	先天性甲状腺機能低下症 後天性甲状腺機能低下症 甲状腺機能亢進症 慢性甲状腺炎 インスリン依存性糖尿病 インスリン非依存性糖尿病 副甲状腺機能低下症 原発性副甲状腺機能亢進症 成長ホルモン欠損症 クッシング症候群 たんぱくエネルギー栄養失調症 肥満症 フェニルケトン尿症 メーブルシロップ尿症 糖尿病 乳糖不耐症 ガラクトース血症 家族性高脂血症 その他	63 1 2 1 68 7 2 1 134 2 1 93 10 2 5 3 11 1 50
精神及び行動の障害	精神分裂病 非器質性精神病性障害 うつ病 強迫性神経症 急性ストレス反応 適応障害 ヒステリー 神経性食欲不振症 摂食障害 非器質性睡眠障害 軽度精神遅滞（IQ50～69） 中等度精神遅滞（IQ35～49） 重度精神遅滞（IQ20～34） 構音障害 表出性言語障害 容容性言語障害 学習能力の特異的発達障害 自閉症 多動性障害 いじめ 学校拒否（不登校） 行為障害（家出、盗み、虚言等） 選択性緘黙 遺尿・夜尿症 遺糞症 吃音症 チック障害 その他	19 1 1 3 4 3 5 1 16 1 1186 926 375 119 422 9 83 815 179 21 101 13 17 26 11 58 6 56
神経系の疾患	髄膜炎 急性脳炎 ライ症候群 ハンチントン病 遺伝性小脳性運動失調 ウエドニッヒ・ホフマン病 てんかん 重症筋無力症 筋ジストロフィー症 先天性ミオパチー 代謝性ミオパチー 脳性麻痺 片麻痺 対麻痺 四肢麻痺 その他	12 7 11 2 3 13 425 20 106 10 1 841 15 1 9 60
眼及び付属器の疾患	眼瞼・結膜・角膜・角膜・水晶体・網膜・眼球の障害 視野欠損・盲・低視力 その他	34 149 21

（印：50件以上の疾患名）

疾病分類	疾患名	件数
耳及び乳様突起の疾患	外耳・中耳・内耳・乳様突起の疾患 感音難聴 伝音難聴 その他	1 115 20 3
循環器系の疾患	突発性心筋症 心不全 その他	1 2 17
呼吸器系の疾患	グループ 喘息性気管支炎 肺炎腫 気管支喘息 その他	1 14 1 101 14
消化器系の疾患	クローン病 過敏性大腸炎症候群 裂肛及び瘻 ヘルニア 肝硬変 その他	5 4 1 39 1 5
皮膚及び皮下組織の疾患	アトピー性皮膚炎 天疱瘡 全身性エリテマトーデス その他	424 1 3 3
筋骨格系結合組織の疾患	急性細菌性関節炎 慢性リウマチ様関節炎 先天性股関節脱臼 骨髄炎 その他	2 5 71 1 13
泌尿器系の疾患	ネフローゼ症候群 慢性腎不全 腎性尿崩症 その他	38 15 2 9
周産期に発生した病態	超低出生体重児（999g以下） 低出生体重児a（1000～1499g以下） 低出生体重児b（1500～2499g以下） 子宮内発育遅延児 腕神経叢麻痺 頭蓋内出血 出生時仮死 呼吸窮迫症候群 ウィルソン・ミルティ症候群 肺出血 新生児遷延性肺高血圧症 先天性風疹症候群 サイトメガロウイルス感染症 ヘルペスウイルス感染症 核黄疸 新生児出血性疾患 その他	765 1859 8063 76 102 22 218 75 16 1 10 5 20 4 3 7
先天奇形・変形及び染色体異常	小頭症 水頭症 ダンディ・ウォーカー症候群 全前脳症 水頭無脳症 脊性破裂・二分脊椎 狭頭症 心室中隔欠損症 心房中隔欠損症 心内膜床欠損症 動脈管閉存症 肺動脈狭窄症 大動脈狭窄症 ファロー四徴症 大血管転位症 総動脈幹症 三尖弁閉鎖症 外耳道閉鎖症 口蓋裂（唇裂を含む） 先天性食道閉鎖・狭窄 食道裂孔ヘルニア 十二指腸閉鎖・狭窄・欠損 小腸閉鎖・狭窄・欠損 肛門の開鎖・狭窄・欠損 ヒルシュスプリング病 先天性胆道閉鎖症 腹膜破裂 低形成腎 水腎症 多指 合指 骨形成不全症 骨幹端異形成 アペール症候群 ロハン症候群 ドラング症候群 ヌーナン症候群 ダウン症候群 エドワーズ症候群 猫なき症候群 ターナー症候群 クラインフェルター症候群 その他	41 131 8 10 8 119 7 215 54 7 10 37 7 117 14 1 12 238 11 3 5 2 26 26 17 7 1 11 31 19 36 5 5 12 3 6 1212 19 15 13 1 224
損傷・中毒・その他の外因の影響	頭・胸・腹部・四肢等の出血、破裂、切断、骨折等 頭・胸・腹部・四肢等の熱傷及び腐食 有機溶剤・洗剤・農薬・一酸化炭素・食物等の毒作用 窒息 虐待症候群 その他の外因作用（雷撃、電流等） 交通事故 転倒・転落 溺水	7 1 3 56 151 3 4 1 40

図6 疾患群別受講者割合

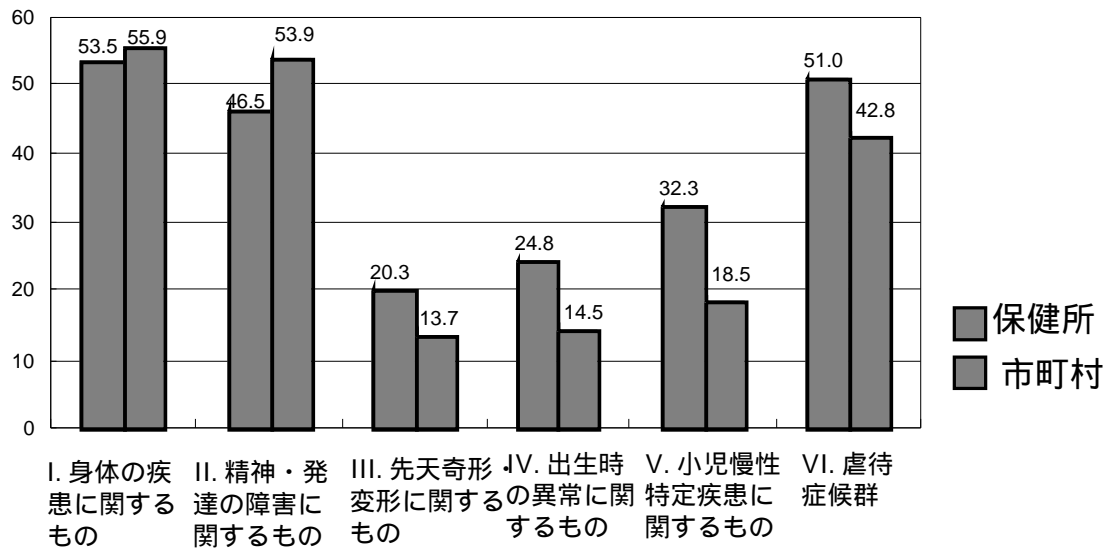


表4 疾患名・研修内容・研修形態別にみた受講者数 < 保健所 >

	受講者数	研修内容				
		疾病・障害に関する知識	治療・リハビリに関する知識	社会資源に関する知識	医療処置に関する技術	直接的看護に関する技術
< ． 身体 の 疾患 に関するもの >	360	325(40.2)	205(25.4)	51(6.3)	38(4.7)	50(6.2)
1 初感染結核	35	33(46.5)	19(26.8)	0(0.0)	5(7.0)	2(2.8)
2 肺結核	41	36(40.4)	21(23.6)	3(3.4)	4(4.5)	4(4.5)
3 O - 1 5 7 感染症	31	29(39.2)	8(10.8)	5(6.8)	4(5.4)	6(8.1)
4 肥満症	28	25(45.5)	12(21.8)	3(5.5)	1(1.8)	3(5.5)
5 てんかん	31	25(41.7)	18(30.0)	3(5.0)	3(5.0)	6(10.0)
6 脳性麻痺	62	53(34.6)	47(30.7)	17(11.1)	4(2.6)	10(6.5)
7 視野欠損・盲・低視力	14	13(38.2)	10(29.4)	5(14.7)	0(0.0)	0(0.0)
8 感音難聴	34	33(37.1)	22(24.7)	10(11.2)	5(5.6)	2(2.2)
9 アトピー性皮膚炎	84	78(42.6)	48(26.2)	5(2.7)	12(6.6)	17(9.3)
10 その他身体疾患に関するもの	24	20(35.1)	11(19.3)	4(7.0)	6(10.5)	6(10.5)
< ． 精神・発達 の 障害 に関するもの >	377	312(33.3)	199(21.3)	77(8.2)	22(2.4)	30(3.2)
11 精神遅滞	60	48(28.9)	33(19.9)	18(10.8)	3(1.8)	7(4.2)
12 構音障害	35	30(38.0)	23(29.1)	6(7.6)	2(2.5)	3(3.8)
13 表出性言語障害	29	24(33.8)	21(29.6)	3(4.2)	3(4.2)	2(2.8)
14 学習能力の特異的発達障害	48	43(36.4)	22(18.6)	8(6.8)	4(3.4)	3(2.5)
15 自閉症	80	72(37.3)	43(22.3)	18(9.3)	2(1.0)	8(4.1)
16 多動性障害	46	41(33.9)	24(19.8)	10(8.3)	2(1.7)	3(2.5)
17 学校拒否	23	13(22.4)	8(13.8)	3(5.2)	2(3.4)	1(1.7)
18 吃音症	14	12(37.5)	6(18.8)	3(9.4)	1(3.1)	0(0.0)
19 その他精神・発達 の 障害 に関するもの	42	29(29.6)	19(19.4)	8(8.2)	3(3.1)	3(3.1)
< ． 先天奇形・変形 に関するもの >	93	76(33.8)	50(22.2)	15(6.7)	14(6.2)	15(6.7)
20 小頭症	2	2(28.6)	1(14.3)	0(0.0)	0(0.0)	1(14.3)
21 水頭症	4	4(30.8)	2(15.4)	0(0.0)	1(7.7)	2(15.4)
22 脊椎破裂・二分脊椎	10	8(29.6)	7(25.9)	1(3.7)	4(14.8)	3(11.1)
23 口蓋裂	22	18(36.7)	12(24.5)	3(6.1)	4(8.2)	3(6.1)
24 ヒルシュスプリング病	1	1(16.7)	1(16.7)	0(0.0)	0(0.0)	1(16.7)
25 先天性股関節脱臼	9	7(33.3)	6(28.6)	1(4.8)	2(9.5)	2(9.5)
26 ダウン症候群	34	11(35.5)	6(19.4)	1(3.2)	2(6.5)	2(6.5)
27 その他先天奇形・変形 に関するもの	11	11(35.5)	6(19.4)	1(3.2)	2(6.5)	2(6.5)
< ． 出生時 の 異常 に関するもの >	117	100(28.0)	68(19.0)	20(5.6)	29(8.1)	33(9.2)
28 低出生体重児	86	70(27.6)	46(18.1)	16(6.3)	22(8.7)	23(9.1)
29 出生時仮死	8	8(28.6)	7(25.0)	2(7.1)	2(7.1)	3(10.7)
30 腕神経叢麻痺	1	1(14.3)	1(14.3)	0(0.0)	1(14.3)	1(14.3)
31 呼吸窮迫症候群	15	15(31.9)	10(21.3)	2(4.3)	2(4.3)	5(10.6)
32 その他出生時 の 異常 に関するもの	7	6(28.6)	4(19.0)	0(0.0)	2(9.5)	1(4.8)
< ． 小児慢性特定疾患 に関するもの >	222	193(35.4)	119(21.8)	24(4.4)	50(9.2)	39(7.2)
33 筋ジストロフィー	9	6(17.1)	5(14.3)	5(14.3)	4(11.4)	5(14.3)
34 神経芽細胞種	23	21(38.9)	12(22.2)	2(3.7)	5(9.3)	2(3.7)
35 心室中隔欠損症	15	14(46.7)	9(30.0)	0(0.0)	3(10.0)	2(6.7)
36 心房中隔欠損症	13	12(44.4)	8(29.6)	0(0.0)	3(11.1)	2(7.4)
37 ファロー四徴症	17	15(40.5)	11(29.7)	0(0.0)	3(8.1)	3(8.1)
38 先天性甲状腺機能低下症	17	14(37.8)	8(21.6)	0(0.0)	4(10.8)	1(2.7)
39 成長ホルモン欠損症	29	27(41.5)	12(18.5)	2(3.1)	8(12.3)	3(4.6)
40 インスリン依存性糖尿病	24	23(31.9)	9(13.0)	5(7.2)	4(5.8)	9(13.0)
41 気管支喘息	39	34(34.3)	24(24.2)	4(4.0)	10(10.1)	9(9.1)
42 その他の小児慢性特定疾患に関するもの	36	28(30.4)	21(22.8)	6(6.5)	6(6.5)	3(3.3)
< ． 虐待症候群 >	183	128(21.8)	42(7.2)	67(11.4)	15(2.6)	15(2.6)
延べ数	1354	1134(32.8)	683(19.8)	254(7.3)	168(4.9)	182(5.3)

() 内は、研修内容、研修形態毎の受講者延べ数に占める割合を計上した

疾患群・名は、前頁の表3に基づき作成した

は、受講者割合が10%以上ものである

(複数回答)

関係機関との 連携方法	ケアシステムの 構築方法・手段	家族への対応 (加齢ケア技術)	家族への対応 (家族間調整技術)	その他	研修形態			
					講義	事例検討会	臨床実習	その他
65(8.0)	14(1.7)	33(4.1)	20(2.5)	7(0.9)	334(82.3)	50(12.3)	13(3.2)	9(2.2)
8(11.3)	0(0.0)	3(4.2)	1(1.4)	0(0.0)	35(87.5)	5(12.5)	0(0.0)	0(0.0)
10(11.2)	0(0.0)	6(6.7)	2(2.2)	3(3.4)	41(83.7)	8(16.3)	0(0.0)	0(0.0)
13(17.6)	2(2.7)	5(6.8)	2(2.7)	0(0.0)	30(88.2)	3(8.8)	0(0.0)	1(2.9)
2(3.6)	3(5.5)	2(3.6)	3(5.5)	1(1.8)	25(83.3)	5(16.7)	0(0.0)	0(0.0)
1(1.7)	0(0.0)	3(5.0)	1(1.7)	0(0.0)	27(90.0)	1(3.3)	2(6.7)	0(0.0)
12(7.8)	4(2.6)	2(1.3)	4(2.6)	0(0.0)	53(63.9)	17(20.5)	11(13.3)	2(2.4)
4(11.8)	1(2.9)	0(0.0)	0(0.0)	1(2.9)	13(72.2)	3(16.7)	0(0.0)	2(11.1)
8(9.0)	2(2.2)	3(3.4)	3(3.4)	1(1.1)	32(86.5)	2(5.4)	0(0.0)	3(8.1)
7(3.8)	2(1.1)	9(4.9)	4(2.2)	1(0.5)	78(91.8)	6(7.1)	0(0.0)	1(1.2)
2(3.5)	2(3.5)	3(5.3)	3(5.3)	0(0.0)	23(88.5)	1(3.8)	1(3.8)	1(3.8)
115(12.3)	29(3.1)	86(9.2)	62(6.6)	4(0.4)	337(71.4)	101(21.4)	18(3.8)	16(3.4)
23(13.9)	6(3.6)	16(9.6)	12(7.2)	0(0.0)	52(65.8)	18(22.8)	6(7.6)	3(3.8)
7(8.9)	0(0.0)	5(6.3)	3(3.8)	0(0.0)	33(76.7)	7(16.3)	2(4.7)	1(2.3)
8(11.3)	0(0.0)	5(7.0)	4(5.6)	1(1.4)	25(67.6)	10(27.0)	1(2.7)	1(2.7)
16(13.6)	3(2.5)	10(8.5)	9(7.6)	0(0.0)	43(72.9)	15(25.4)	0(0.0)	1(1.7)
17(8.8)	5(2.6)	17(8.8)	11(5.7)	0(0.0)	76(73.8)	17(16.5)	5(4.9)	5(4.9)
18(14.9)	5(4.1)	9(7.4)	8(6.6)	1(0.8)	40(75.5)	11(20.8)	1(1.9)	1(1.9)
10(17.2)	3(5.2)	11(19.0)	6(10.3)	1(1.7)	19(63.3)	11(36.7)	0(0.0)	0(0.0)
6(18.8)	0(0.0)	3(9.4)	1(3.1)	0(0.0)	14(70.0)	5(25.0)	1(5.0)	0(0.0)
10(10.2)	7(7.1)	10(10.2)	8(8.2)	1(1.0)	35(72.9)	7(14.6)	2(4.2)	4(8.3)
17(7.6)	13(5.8)	13(5.8)	11(4.9)	1(0.4)	76(75.2)	15(14.9)	6(5.9)	4(4.0)
1(14.3)	1(14.3)	1(14.3)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
1(7.7)	1(7.7)	1(7.7)	1(7.7)	0(0.0)	4(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
1(3.7)	1(3.7)	0(0.0)	2(7.4)	0(0.0)	8(80.0)	1(10.0)	1(10.0)	0(0.0)
4(8.2)	1(2.0)	3(6.1)	1(2.0)	0(0.0)	16(80.0)	2(10.0)	0(0.0)	2(10.0)
1(16.7)	1(16.7)	0(0.0)	1(16.7)	0(0.0)	1(50.0)	1(50.0)	0(0.0)	0(0.0)
1(4.8)	0(0.0)	2(9.5)	0(0.0)	0(0.0)	8(80.0)	1(10.0)	1(10.0)	0(0.0)
2(6.5)	2(6.5)	2(6.5)	3(9.7)	0(0.0)	10(71.4)	3(21.4)	1(7.1)	0(0.0)
2(6.5)	2(6.5)	2(6.5)	3(9.7)	0(0.0)	10(71.4)	3(21.4)	1(7.1)	0(0.0)
40(11.2)	16(4.5)	26(7.3)	21(5.9)	4(1.1)	104(65.4)	32(20.1)	15(9.4)	8(5.0)
29(11.4)	14(5.5)	17(6.7)	13(5.1)	4(1.6)	75(65.8)	22(19.3)	12(10.5)	5(4.4)
3(10.7)	0(0.0)	1(3.6)	2(7.1)	0(0.0)	8(61.5)	3(23.1)	1(7.7)	1(7.7)
1(14.3)	0(0.0)	1(14.3)	1(14.3)	0(0.0)	1(50.0)	1(50.0)	0(0.0)	0(0.0)
4(8.5)	2(4.3)	3(6.4)	4(8.5)	0(0.0)	14(66.7)	4(19.0)	2(9.5)	1(4.8)
3(14.3)	0(0.0)	4(19.0)	1(4.8)	0(0.0)	6(66.7)	2(22.2)	0(0.0)	1(11.1)
48(8.8)	20(3.7)	26(4.8)	25(4.6)	1(0.2)	198(77.0)	16(6.2)	28(10.9)	15(5.8)
4(11.4)	2(5.7)	1(2.9)	3(8.6)	0(0.0)	6(42.9)	2(14.3)	6(42.9)	0(0.0)
5(9.3)	2(3.7)	3(5.6)	1(1.9)	1(1.9)	22(91.7)	2(8.3)	0(0.0)	0(0.0)
1(3.3)	0(0.0)	1(3.3)	0(0.0)	0(0.0)	15(78.9)	0(0.0)	3(15.8)	1(5.3)
1(3.7)	0(0.0)	1(3.7)	0(0.0)	0(0.0)	13(76.5)	0(0.0)	3(17.6)	1(5.9)
2(5.4)	1(2.7)	1(2.7)	1(2.7)	0(0.0)	16(76.2)	1(4.8)	3(14.3)	1(4.8)
5(13.5)	2(5.4)	2(5.4)	1(2.7)	0(0.0)	15(93.8)	0(0.0)	0(0.0)	1(6.3)
6(9.2)	2(3.1)	2(3.1)	3(4.6)	0(0.0)	28(93.3)	0(0.0)	2(6.7)	0(0.0)
8(11.6)	4(5.8)	5(7.2)	3(4.3)	0(0.0)	21(61.8)	4(11.8)	4(11.8)	5(14.7)
6(6.1)	2(2.0)	5(5.1)	5(5.1)	0(0.0)	34(79.1)	5(11.6)	3(7.0)	1(2.3)
10(10.9)	5(5.4)	5(5.4)	8(8.7)	0(0.0)	28(71.8)	2(5.1)	4(10.3)	5(12.8)
133(22.7)	61(10.4)	61(10.4)	61(10.4)	3(0.5)	158(64.5)	75(30.6)	2(0.8)	10(4.1)
418(12.1)	153(4.4)	245(7.1)	200(5.8)	20(0.6)	1207(73.6)	289(17.6)	82(5.0)	62(3.8)

10 その他身体疾患に関するもの：難聴、アレルギー等

19 その他精神・発達の障害に関するもの：学習障害、情緒障害、摂食障害、脳性麻痺等

27 その他先天奇形・変形に関するもの：マルファン症候群、ピエールロバン症候群、先天性代謝異常等

42 その他の小児慢性特定疾患に関するもの：悪性新生物、腎炎、胆道閉鎖症等

研修内容「その他」：法律相談、教育相談について等

表5 疾患名・研修内容・研修形態別にみた受講者数 <市町村>

	受講者数	研修内容				
		疾病・障害に 関する知識	治療・リハビリに 関する知識	社会資源に 関する知識	医療処置に 関する技術	直接的看護に 関する技術
< ． 身体 の 疾患 に 関 す る も の >	719	642(38.8)	391(23.7)	97(5.9)	114(6.9)	77(4.7)
1 初感染結核	41	33(40.7)	13(16.0)	4(4.9)	7(8.6)	2(2.5)
2 肺結核	36	30(42.3)	14(19.7)	2(2.8)	7(9.9)	4(5.6)
3 O - 1 5 7 感 染 症	38	35(36.8)	13(13.7)	6(6.3)	11(11.6)	5(5.3)
4 肥満症	65	56(47.5)	25(21.2)	6(5.1)	2(1.7)	4(3.4)
5 てんかん	44	35(29.7)	26(22.0)	9(7.6)	8(6.8)	9(7.6)
6 脳性麻痺	92	78(32.4)	67(27.8)	22(9.1)	7(2.9)	9(3.7)
7 視野欠損・盲・低視力	62	60(39.7)	39(25.8)	11(7.3)	12(7.9)	2(1.3)
8 感音難聴	116	111(41.1)	62(23.0)	19(7.0)	19(7.0)	6(2.2)
9 アトピー性皮膚炎	175	157(41.2)	104(27.3)	8(2.1)	33(8.7)	31(8.1)
10 その他身体疾患に関するもの	50	47(37.0)	28(22.0)	10(7.9)	8(6.3)	5(3.9)
< ． 精 神 ・ 発 達 の 障 害 に 関 す る も の >	752	620(34.5)	357(19.9)	150(8.3)	26(1.4)	63(3.5)
11 精神遅滞	139	112(32.2)	67(19.3)	29(8.3)	3(0.9)	13(3.7)
12 構音障害	79	72(39.3)	44(24.0)	13(7.1)	4(2.2)	4(2.2)
13 表出性言語障害	64	51(37.5)	30(22.1)	11(8.1)	3(2.2)	5(3.7)
14 学習能力の特異的発達障害	79	70(37.6)	36(19.4)	16(8.6)	3(1.6)	7(3.8)
15 自閉症	178	148(33.9)	87(20.0)	38(8.7)	5(1.1)	17(3.9)
16 多動性障害	87	74(35.7)	44(21.3)	17(8.2)	5(2.4)	8(3.9)
17 学校拒否	44	32(27.4)	16(13.7)	12(10.3)	0(0.0)	1(0.9)
18 吃音症	23	18(38.3)	10(21.3)	2(4.3)	0(0.0)	2(4.3)
19 その他精神・発達の障害に関するもの	59	43(31.4)	23(16.8)	12(8.8)	3(2.2)	6(4.4)
< ． 先 天 奇 形 ・ 変 形 に 関 す る も の >	186	162(36.6)	100(22.6)	37(8.4)	47(10.6)	13(2.9)
20 小頭症	12	9(42.9)	3(14.3)	2(9.5)	3(14.3)	1(4.8)
21 水頭症	14	12(41.4)	5(17.2)	2(6.9)	5(17.2)	1(3.4)
22 脊椎破裂・二分脊椎	26	22(37.3)	15(25.4)	5(8.5)	4(6.8)	3(5.1)
23 口蓋裂	28	27(34.2)	19(24.1)	8(10.1)	10(12.7)	2(2.5)
24 ヒルシュスプリング病	6	6(46.2)	3(23.1)	1(7.7)	1(7.7)	0(0.0)
25 先天性股関節脱臼	50	44(38.6)	31(27.2)	6(5.3)	13(11.4)	4(3.5)
26 ダウン症候群	39	32(32.0)	19(19.0)	11(11.0)	6(6.0)	2(2.0)
27 その他先天奇形・変形に関するもの	11	10(35.7)	5(17.9)	2(7.1)	5(17.9)	0(0.0)
< ． 出 生 時 の 異 常 に 関 す る も の >	112	92(34.2)	46(17.1)	24(8.9)	22(8.2)	12(4.5)
28 低出生体重児	81	63(32.5)	34(17.5)	17(8.8)	17(8.8)	8(4.1)
29 出生時仮死	11	11(52.4)	5(23.8)	1(4.8)	0(0.0)	1(4.8)
30 腕神経叢麻痺	3	2(28.6)	1(14.3)	1(14.3)	0(0.0)	1(14.3)
31 呼吸窮促迫症候群	8	8(36.4)	4(18.2)	2(9.1)	3(13.6)	1(4.5)
32 その他出生時の異常に関するもの	9	8(32.0)	2(8.0)	3(12.0)	2(8.0)	1(4.0)
< ． 小 児 慢 性 特 定 疾 患 に 関 す る も の >	173	144(39.1)	100(27.2)	24(6.5)	30(8.2)	16(4.3)
33 筋ジストロフィー	16	10(30.3)	5(15.2)	3(9.1)	2(6.1)	1(3.0)
34 神経芽細胞種	28	26(45.6)	17(29.8)	3(5.3)	5(8.8)	2(3.5)
35 心室中隔欠損症	6	6(75.0)	2(25.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
36 心房中隔欠損症	6	6(75.0)	2(25.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
37 ファロー四徴症	4	3(75.0)	1(25.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
38 先天性甲状腺機能低下症	8	8(42.1)	7(36.8)	2(10.5)	2(10.5)	0(0.0)
39 成長ホルモン欠損症	35	26(36.1)	23(31.9)	5(6.9)	9(12.5)	1(1.4)
40 インスリン依存性糖尿病	22	18(28.6)	13(20.6)	5(7.9)	6(9.5)	4(6.3)
41 気管支喘息	36	29(39.2)	23(31.1)	2(2.7)	4(5.4)	7(9.5)
42 その他の小児慢性特定疾患に関するもの	12	12(40.0)	7(23.3)	4(13.3)	2(6.7)	1(3.3)
< ． 慮 待 症 候 群 >	262	194(25.9)	51(6.8)	106(14.2)	14(1.9)	16(2.1)
計	2204	1854(35.1)	1045(19.8)	438(8.3)	253(4.8)	197(3.7)

()内は、研修内容、研修形態毎の受講者延べ数に占める割合を計上した

疾患群・名は、前々頁の表3に基づき作成した

は、受講者割合が10%以上ものである

(複数回答)

関係機関との 連携方法	ケアシステムの 構築方法・手段	家族への対応 (加齢リグ 技術)	家族への対応 (家族間調整技術)	その他	研修形態			
					講義	事例検討会	臨床実習	その他
145(8.8)	40(2.4)	86(5.2)	43(2.6)	18(1.1)	657(86.8)	61(8.1)	22(2.9)	17(2.2)
13(16.0)	5(6.2)	1(1.2)	1(1.2)	2(2.5)	35(89.7)	3(7.7)	0(0.0)	1(2.6)
10(14.1)	1(1.4)	2(2.8)	1(1.4)	0(0.0)	30(93.8)	2(6.3)	0(0.0)	0(0.0)
12(12.6)	4(4.2)	5(5.3)	2(2.1)	2(2.1)	37(94.9)	2(5.1)	0(0.0)	0(0.0)
13(11.0)	2(1.7)	7(5.9)	2(1.7)	1(0.8)	57(87.7)	4(6.2)	1(1.5)	3(4.6)
9(7.6)	3(2.5)	11(9.3)	7(5.9)	1(0.8)	36(73.5)	10(20.4)	2(4.1)	1(2.0)
21(8.7)	5(2.1)	19(7.9)	10(4.1)	3(1.2)	83(70.3)	15(12.7)	18(15.3)	2(1.7)
16(10.6)	1(0.7)	4(2.6)	2(1.3)	4(2.6)	61(91.0)	4(6.0)	0(0.0)	2(3.0)
29(10.7)	7(2.6)	9(3.3)	5(1.9)	3(1.1)	110(90.2)	8(6.6)	0(0.0)	4(3.3)
12(3.1)	7(1.8)	21(5.5)	8(2.1)	0(0.0)	163(92.1)	10(5.6)	0(0.0)	4(2.3)
10(7.9)	5(3.9)	7(5.5)	5(3.9)	2(1.6)	45(91.8)	3(6.1)	1(2.0)	0(0.0)
200(11.1)	70(3.9)	189(10.5)	114(6.3)	8(0.4)	630(75.4)	172(20.6)	16(1.9)	18(2.2)
43(12.4)	17(4.9)	37(10.6)	24(6.9)	3(0.9)	117(70.1)	40(24.0)	5(3.0)	5(3.0)
14(7.7)	4(2.2)	18(9.8)	9(4.9)	1(0.5)	71(85.5)	11(13.3)	0(0.0)	1(1.2)
11(8.1)	5(3.7)	14(10.3)	6(4.4)	0(0.0)	50(84.7)	9(15.3)	0(0.0)	0(0.0)
18(9.7)	8(4.3)	16(8.6)	11(5.9)	1(0.5)	69(82.1)	13(15.5)	1(1.2)	1(1.2)
55(12.6)	13(3.0)	42(9.6)	29(6.7)	2(0.5)	150(73.5)	45(22.1)	6(2.9)	3(1.5)
22(10.6)	11(5.3)	14(6.8)	11(5.3)	1(0.5)	73(76.8)	18(18.9)	2(2.1)	2(2.1)
14(12.0)	7(6.0)	21(17.9)	14(12.0)	0(0.0)	37(68.5)	17(31.5)	0(0.0)	0(0.0)
4(8.5)	0(0.0)	8(17.0)	3(6.4)	0(0.0)	20(83.3)	3(12.5)	0(0.0)	1(4.2)
19(13.9)	5(3.6)	19(13.9)	7(5.1)	0(0.0)	43(65.2)	16(24.2)	2(3.0)	5(7.6)
26(5.9)	17(3.8)	27(6.1)	9(2.0)	5(1.1)	156(79.6)	26(13.3)	11(5.6)	3(1.5)
1(4.8)	2(9.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	9(81.8)	1(9.1)	1(9.1)	0(0.0)
1(3.4)	2(6.9)	1(3.4)	0(0.0)	0(0.0)	12(80.0)	2(13.3)	1(6.7)	0(0.0)
4(6.8)	2(3.4)	3(5.1)	1(1.7)	0(0.0)	20(80.0)	4(16.0)	1(4.0)	0(0.0)
3(3.8)	2(2.5)	6(7.6)	2(2.5)	0(0.0)	25(80.6)	5(16.1)	1(3.2)	0(0.0)
1(7.7)	1(7.7)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
8(7.0)	3(2.6)	4(3.5)	0(0.0)	1(0.9)	43(79.6)	4(7.4)	5(9.3)	2(3.7)
7(7.0)	4(4.0)	10(10.0)	5(5.0)	4(4.0)	33(78.6)	6(14.3)	2(4.8)	1(2.4)
1(3.6)	1(3.6)	3(10.7)	1(3.6)	0(0.0)	9(69.2)	4(30.8)	0(0.0)	0(0.0)
32(11.9)	6(2.2)	19(7.1)	15(5.6)	1(0.4)	97(82.9)	14(12.0)	3(2.6)	3(2.6)
24(12.4)	5(2.6)	13(6.7)	12(6.2)	1(0.5)	69(81.2)	10(11.8)	3(3.5)	3(3.5)
2(9.5)	0(0.0)	1(4.8)	0(0.0)	0(0.0)	11(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
1(14.3)	0(0.0)	1(14.3)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
2(9.1)	0(0.0)	2(9.1)	0(0.0)	0(0.0)	8(88.9)	1(11.1)	0(0.0)	0(0.0)
3(12.0)	1(4.0)	2(8.0)	3(12.0)	0(0.0)	7(70.0)	3(30.0)	0(0.0)	0(0.0)
22(6.0)	9(2.4)	14(3.8)	9(2.4)	0(0.0)	142(82.1)	25(14.5)	2(1.2)	4(2.3)
3(9.1)	3(9.1)	4(12.1)	2(6.1)	0(0.0)	10(55.6)	5(27.8)	2(11.1)	1(5.6)
3(5.3)	1(1.8)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	25(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	8(88.9)	1(11.1)	0(0.0)	0(0.0)
3(4.2)	1(1.4)	3(4.2)	1(1.4)	0(0.0)	28(84.8)	5(15.2)	0(0.0)	0(0.0)
6(9.5)	2(3.2)	4(6.3)	5(7.9)	0(0.0)	18(69.2)	7(26.9)	0(0.0)	1(3.8)
4(5.4)	2(2.7)	2(2.7)	1(1.4)	0(0.0)	29(82.9)	5(14.3)	0(0.0)	1(2.9)
3(10.0)	0(0.0)	1(3.3)	0(0.0)	0(0.0)	12(80.0)	2(13.3)	0(0.0)	1(6.7)
149(19.9)	55(7.3)	84(11.2)	78(10.4)	2(0.3)	233(73.7)	79(25.0)	1(0.3)	3(0.9)
574(10.8)	197(3.7)	419(7.9)	268(5.1)	34(0.6)	915(65.6)	377(27.0)	55(3.9)	48(3.4)

10 その他身体疾患に関するもの：ATL、喘息、インフルエンザ、気管支炎、難聴等

19 その他精神・発達障害に関するもの：学習障害、情緒障害、摂食障害、脳性麻痺等

27 その他先天奇形・変形に関するもの：多指症、遺伝疾患全般、内反足、無脳児、三角頭蓋等

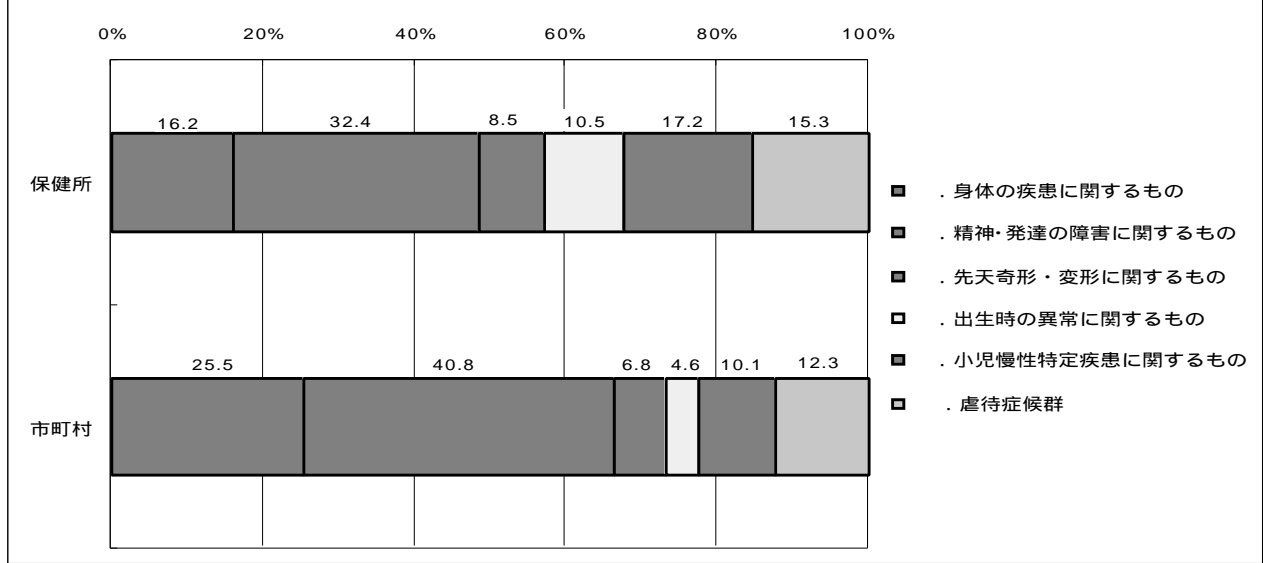
32 その他出生時の異常に関するもの：遺伝、周産期死亡、多胎児等

42 その他の小児慢性特定疾患に関するもの：悪性新生物、先天代謝異常等

研修内容「その他」：家族会活動、教育相談について等

研修形態「その他」：施設見学、体験発表、シンポジウム等

図7 研修でとりあげてほしい疾患群別割合



数値は、保健所、市町村の回答者に占める割合を計上した

表6 今後研修で取り上げてほしい疾患名

(複数回答)

	保健所						市町村					
	順位					計	順位					計
	1位	2位	3位	4位	5位		1位	2位	3位	4位	5位	
< . 身体疾患に関するもの >	44(13.5)	44	44	50	49	231(15.9)	149(26.4)	116	125	122	147	659(25.2)
1 初感染結核	9	10	5	6	8	38	10	8	13	9	11	51
2 肺結核	1	3	2	5	0	11	2	2	3	4	4	15
3 O-157感染症	1	1	4	3	1	10	1	0	1	0	4	6
4 肥満症	2	3	4	11	5	25	31	21	19	31	19	121
5 てんかん	8	6	5	6	4	29	11	15	16	17	17	76
6 脳性麻痺	11	10	9	7	8	45	23	10	10	12	16	71
7 視野欠損・盲・低視力	2	3	1	3	6	15	6	5	8	3	3	25
8 感音難聴	2	0	3	4	5	14	0	9	6	9	12	36
9 アトピー性皮膚炎	5	7	10	5	11	38	63	43	47	33	55	241
10 その他身体疾患に関するもの	3	1	1	0	1	6	2	3	2	4	6	17
< . 精神・発達障害に関するもの >	104(31.8)	135	97	66	61	463(31.9)	273(48.3)	283	217	159	124	1056(40.3)
11 精神遅滞	11	19	11	3	8	52	66	46	26	25	16	179
12 構音障害	2	1	2	4	6	15	6	20	14	2	6	48
13 表出性言語障害	9	11	6	8	3	37	24	26	21	11	9	91
14 学習能力の特異的発達障害	17	28	15	11	8	79	24	40	34	18	12	128
15 自閉症	25	28	19	11	10	93	73	73	58	35	22	261
16 多動性障害	11	16	23	10	7	67	23	35	30	28	14	130
17 学校拒否	10	18	10	11	13	62	6	13	15	19	22	75
18 吃音症	0	0	0	0	1	1	1	2	4	5	6	18
19 その他精神・発達障害に関するもの	19	14	11	8	5	57	50	28	15	16	17	126
< . 先天奇形・変形に関するもの >	13(4.0)	22	33	25	28	121(8.3)	14(2.5)	37	46	41	37	175(6.7)
20 小頭症	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2
21 水頭症	1	0	3	1	1	6	0	1	0	2	2	5
22 脊椎破裂・二分脊椎	1	3	5	7	6	22	1	3	7	4	3	18
23 口蓋裂	2	4	7	7	7	27	1	3	4	8	5	21
24 ヒルシュスプリング病	0	2	1	0	2	5	0	0	0	3	0	3
25 先天性股関節脱臼	0	0	1	1	1	3	1	7	7	6	8	29
26 ダウン症候群	6	10	11	6	8	41	10	21	18	18	17	84
27 その他先天奇形・変形に関するもの	3	3	3	3	3	15	1	2	8	0	2	13
< . 出生時の異常に関するもの >	25(7.6)	35	30	35	25	150(10.3)	15(2.7)	20	18	32	33	118(4.5)
28 低出生体重児	21	25	19	25	15	105	15	16	15	26	25	97
29 出生時仮死	1	4	2	2	2	11	0	3	3	0	3	9
30 腕神経叢麻痺	0	1	2	1	1	5	0	0	0	1	1	2
31 呼吸窮迫症候群	2	3	4	3	2	14	0	1	0	1	1	3
32 その他出生時の異常に関するもの	1	2	3	4	5	15	0	0	0	4	3	7
< . 小児慢性特定疾患に関するもの >	38(11.6)	40	50	60	58	246(16.9)	26(4.6)	38	54	87	57	262(10.0)
33 筋ジストロフィー	3	2	6	5	5	21	3	2	6	5	1	17
34 神経芽細胞種	1	3	3	8	4	19	2	3	4	15	9	33
35 心室中隔欠損症	0	0	0	0	1	1	2	1	5	3	4	15
36 心房中隔欠損症	0	0	0	1	1	2	0	1	0	2	2	5
37 ファロー四徴症	2	1	2	2	1	8	1	1	1	3	0	6
38 先天性甲状腺機能低下症	3	4	3	2	0	12	1	1	0	2	2	6
39 成長ホルモン欠損症	7	8	14	10	9	48	5	10	19	24	18	76
40 インスリン依存性糖尿病	4	8	13	10	10	45	4	4	6	6	4	24
41 気管支喘息	2	5	2	9	11	29	3	13	8	25	14	63
42 その他の小児慢性特定疾患に関するもの	16	9	7	13	16	61	5	2	5	2	3	17
< . 虐待症候群 >	97(30.2)	36	34	27	25	219(15.3)	85(15.1)	48	63	54	69	319(12.3)
計	321(100.0)	312	288	263	246	1430(100.0)	562(100.0)	542	523	495	467	2589(100.0)

表7 今後、希望する研修内容（1～5位までの累計）（複数回答）

	保健所	市町村
疾病・障害に関する知識	1176 (20.7)	2159 (21.9)
治療・リハビリに関する知識	942 (16.5)	1706 (17.3)
社会資源に関する知識	472 (8.3)	936 (9.5)
医療処置に関する技術	284 (5.0)	486 (4.9)
直接的看護に関する技術	364 (6.4)	525 (5.3)
関係機関との連携方法	549 (9.6)	981 (9.9)
ケアシステムの構築方法・手段について	472 (8.3)	624 (6.3)
家族への対応（カウンセリング技術）	801 (14.1)	1433 (14.5)
家族への対応（家族間調整技術）	603 (10.6)	939 (9.5)
その他	31 (0.5)	78 (0.8)
計	5694 (100.0)	9867 (100.0)

（ ）内は、1～5位までの総累計に占める割合を計上した

その他：保健所：発達のみかた、療育支援システムの構築方法等 市町村：保健指導について、スクリーニング方法等

表8 援助を通しての疑問や困難の解決方法（複数回答）

	保健所 (N=359)	市町村 (N=610)
先輩保健婦に相談する	291 (81.1)	454 (74.4)
事例の担当医または専門医に相談する	307 (85.5)	408 (66.9)
専門の電話相談にかける	36 (10.0)	402 (65.9)
自分で専門書を読み、調べ、勉強する	261 (72.7)	383 (62.8)
その他	91 (25.3)	103 (16.9)

その他：事例検討会、保健所・児童相談所に相談等

（ ）内は、回答者数に占める割合を計上した

表9 小児保健医療に関する研修の企画・実施状況（N=359）

	数(%)
企画・実施している	268 (74.7)
企画・実施していない	82 (22.8)
無回答	9 (2.5)
計	359 (100.0)

表10 企画・実施している研修の形態（複数回答）

	数(%)
講義	252 (70.2)
事例検討会	127 (35.4)
臨床実習	5 (1.4)
その他	21 (5.8)
延べ数	405

その他：グループワーク、施設見学、情報交換会、シンポジウム等

（ ）内は、研修を企画・実施している保健所数に占める割合

表 11 小児慢性特定疾患医療給付申請窓口の担当者 (N=359)

	数(%)
保健婦	102 (28.4)
事務職	193 (53.8)
その他	37 (10.3)
無回答	27 (7.5)
計	359 (100.0)

その他：本庁で対応、保健婦と事務職、栄養士、歯科衛生士、助産婦等

表 12 小児慢性特定疾患医療給付申請時における保健婦の面接・相談状況 (N=359)

	数(率)
申請時の相談・面接を実施	329 (91.7)
申請者の希望により実施	86 (24.0)
窓口の担当者の判断による	67 (18.7)
初回申請者に対しては必ず実施	59 (16.4)
すべての申請者に対して実施	105 (29.2)
その他	39 (10.9)
申請時の相談・面接をしていない	22 (6.1)
無回答	8 (2.2)
計	359 (100.0)

その他：主治医の依頼により面接、保健婦が所内にいる場合のみ、
申請書が医療機関から直接郵送される場合は実施せず

表13 自由記載<小児保健医療に関して保健婦(士)の力量や技術を向上させるために専門研修に期待すること>

	保健所	市町村	本庁
研修でとりあげてほしい疾患等	・乳幼児で長期的に経過をみていかなければならない疾病 ・重度・重複障害をもって在宅になる子ども ・医療依存度の高い状態で地域に戻る児	・今の子どもたちに起きているこころの変化について ・グレーゾーンの子 ・健診等でよく遭遇するようなケース ・専門情報があまり入手できない疾患について	・支援システムのルートにさえ乗れない処遇困難事例
	・小児慢性特定疾患 ・ハイリスクの妊婦に起因する児の疾患や障害、出生時の先天異常、遺伝性疾患等について ・遺伝性疾患をはじめ、種々の症候群、染色体異常の児 ・1000g未満の出生体重児 ・表出性言語障害、自閉症、多動性障害、広汎性発達障害、MR、学習障害の児 ・家族機能障害、虐待、いじめ、登校拒否等	・小児慢性特定疾患 ・先天奇形・変形 ・小児精神疾患	
研修でとりあげてほしい内容	・子どもの心理	・健康な小児の発達段階	・子どもの身体をきちんと系統的に理解できる(病気だけを取り上げるのではなく)研修
	・疾患、治療、障害等の理解や学習	・最新の医療の考え方や検査方法、治療・療育方法等、臨床の情報	・疾病・障害・治療・リハビリに関する知識を得る
	・最新の医療、看護について		・遺伝子レベル・生殖医療技術等に関連する研修 ・家族への対応も含め児の発達を促していけるような関わりを計画していけるような専門研修が必要
	・疾病、障害をもつ児と、その家族への対応(カウンセリング技術、家庭間調整技術)	・具体的なカウンセリング技術やケアの方法のノウハウ	・各疾患の疾病、障害に関する基本的知識を基盤に在宅支援に関する知識を系統的に ・在宅医療でサポートできるような看護技術の取得に関する研修
	・リハビリ在宅ケアに関する技術研修		・精神的サポートを行うためのカウンセリング技術の研修
	・親の会などについての実践 ・虐待の対応	・疾患児、障害児をもつ家族を理解し、支援する基本	
システムづくりの連携	・疾患をもつ人がいる地域を取り巻く、ケアシステム、連携のあり方について ・地域でのケアシステムの構築に向けての力量を向上させる	・医療・専門機関との連携について ・子育て支援を地域の中で育てていくための地域づくりや、システムを構築していく方法について	・保健婦が的確なケアコーディネーションと地域におけるサポート体制づくりが担えるような研修 ・支援システム構築を図る方法や手段をどう考えて作り上げていったらよいか、そのシステムを稼働させてどうだったか等、実務編を入れて効果まで考えられるような研修
	・母子保健対策を推進することが、どのように町づくりにつながるのか、考え方をつけられるような研修会		
その他	・大きく捉えた小児保健医療の方向性(？)、あり方(？) ・法的な意味づけ ・母子保健、小児保健の統計的なもの見方や、考え方、事業の評価方法を学ぶ機会		
		・資源の探し方、情報収集の仕方	
研修でとりあげてほしい形態	・第一線で活躍されている専門医、専門家の講義を事例を交えて聞ける機会 ・関係者間での事例検討(それぞれの役割の明確化と連携) ・必要な関係機関が同時に受講し、企画、立案のノウハウを学び、仕事として立案していく	・国、県、大学等の機関、子ども病院による専門研修 ・専門の講師の講演などを聞く ・専門家(大学の教授たち・医師等)を交えた事例のカンファレンス ・関係機関が一同に研修を受ける場があれば、合理化が進むのではないかと	・母子センター等、小児専門病院との合同研修 ・同職種だけの研修会でなく、保健・医療・福祉・教育を含めたいろんな職種を交えての研修会もよい ・各所属で対応の困難な事例検討を母子保健・医療・福祉・教育の関係者で行うなど地域で支援していくための方策を考える
	・在宅高度医療児等過去に関わったことのない在宅医療機器を導入する場合については、担当する際には専門研修に受けられる体制作りが必要(臨床実習)	・実習を取り入れて、実際に体験	・医療機器の使用方の実習プログラムの必要性も検討する時期かもしれない
	・患者家族の会の代表による講演	・対象となる住民の意見や、障害を持つ児の保護者(家族の会)との交流や意見交換をもてる研修	
	・それぞれの課題に対する取り組みの、全国交流・情報交換も必要だ	・他町村保健婦との情報交換	
	・現場での実践の内容を研修の題材とし、さらに研修で学んだことを現場で実践してみてどうだったか評価していくようなシステムの研修		
			・県(保健所保健婦を学会、中央研修などに派遣)保健所(派遣された保健婦が研修を企画・実施)管轄市町村(研修参加・情報交換)
研修開催上の留意点・要望	・県単位で研修を開催	・もっと地方で開催を	・中央での研修会が今後も計画的、継続的に実施されその計画が地方にスムーズに流れてくることを希望する ・計画的にブロック毎に回っていく
	・研修地域も、いろいろブロックをつくり、何箇所かで行ってもらおう	・ブロック別で回数を分けて、近くで研修を設定	
		・短期間の研修	・1つのテーマ(疾患・障害)に対して研修日数を増やした開催が望ましい
	・プログラム化・シリーズ化	・同じ内容の研修が何回かあればたすかる	
	・系統的研修体制づくりと、予算の確保が課題		・資質の向上、新しい情報を得る機会には各県で必要(予算化・補助金など) ・計画的に進めていく必要がある
	・国レベル、県レベルでの保健婦の力量や技術に関する研修の設定と評価などがあると良い ・スーパーバイザー的位置づけが必要		
研修を補完する方法		・厚生省や県主催の無料の研修を増やしてほしい ・開催曜日を平日、夜、土日とバラエティに富んで計画してほしい	
	・認定資格が得られるような内容		
	・地方主催の研修でも、安価な(行政では、支払える講師料に限りがある)講師料で、専門の先生を紹介していただけるようなシステム(相談窓口)があれば	・保健所も研修機関として力量をつけていただきたい	・他都市の研修状況等がわかれば今後の企画の参考になるか
	・最新の医療や保健に関する情報を印刷物で提供してほしい	・それぞれの疾病に関する専門医や専門機関の情報や研修の情報も、地域でも確実に得ることができるような機会、システム ・インターネットの利用による知識の吸収がいつそう進むと思われるので、データベースの充実 ・大学小児科学教室で実施されている勉強会へ参加するチャンスが与えられていて、心強く感じている ・研修、学会等の機会にコンタクトをとって情報をあつめる ・研究会等の抄録集が、簡単に手に入るようにしてほしい	・小児保健医療に関する情報(医学・看護・地域のグループなど)収集、提供機関があるとよい

表14 自由記載<本庁保健婦からみた疾患・障害児のケアに関して、保健所保健婦(士)及び市町村保健婦(士)がとるべき役割について>

	保健婦全般	保健所保健婦	市町村保健婦
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・初期の段階における相談窓口機能 ・ただでさえ、育児不安が強い現代の母親に育児不安を少しでも軽減し、閉じこもり育児、虐待防止をはかるための支援が必要 ・病気や障害を早期に発見し、適切な医学的対応と療育を行うことが子どもの身体的、機能的、社会的不利からまもることにつながると考えられる ・疾病や障害にとらわれることなくその疾病や障害をもつ児の生活をみるのが大切だ 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口としての相談役及び個人(家族)の相談役 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の身近な相談者として日頃の現状の状況を把握し、相談にのる ・乳幼児健康審査や母親教室等健康教育を行う中で育児不安を持つ保護者への対応や地域の子育て支援サービスと連携をとりながら、虐待の防止等予防活動の充実を図って行きたい ・疾患、障害児、虐待児等の早期発見・早期ケア ・患者や取り巻く環境を把握しているので、キーパーソンは誰とか、どのようにしたらQOLを高めることができるか等、具体的なケアができればよい
		<ul style="list-style-type: none"> ・慢性小児疾患、発達に遅れのある子どもの療育指導については保健所の専門的業務として、市町村と協力しながら充実させていく必要がある ・未熟児・障害児・子を亡くした親・虐待予備事例(虐待をしている親の支援)などへの広域的専門的ケアを積極的に実施すべき ・遺伝相談等の専門的相談への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村がケア体制の中で、どの部分を担う必要があるのかを明確化した上での具体的な支援を実施する ・住民の生活に一番近いという立場から疾病、障害児等がその地域で暮らしていけるよう保健所保健婦と連携を図りながら生活支援を行っていくことが必要だ
	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患・障害児自身あるいは家族がセルフグループを組織し自己の問題に向かうことに支援するのが保健婦の役割ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育教室においては同じような疾病、障害を持つ児と交流できたり、育児や病気等について情報交換できたり、福祉サービスについて情報が得られたりする場となるように心がける ・患者会・親の会等の情報の収集・交換・発信等 	<ul style="list-style-type: none"> ・親同士の仲間作りを推進し自立化を図る
		<ul style="list-style-type: none"> ・疾患に対する専門的な知識と全国の制度等の情報提供 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・通園施設や学校に進んだ後どうしても保健婦の関わりが希薄になるが、ライフサイクルに応じて継続した支援が必要 		
連携・システムづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉・教育等地域の関係機関と連携しながら調整役・ネットワークづくりをはたす役割がある ・地域のニーズ・地域の分析・関係機関との話し合い等で、疾患・障害児等のケアについてケアの必要な人への適切な支援内容を考えていくことが望ましい ・直接のケアをしなくても、医療機関・療育機関・学校や保育所等の関係機関との連絡調整を密に行い、児と家族が快適な毎日を過ごせるよう援助するコーディネーターとしての役割 ・連携方法が体系的に整備されかつ検証されなければ意味を持たない 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所としては処遇困難なケースについてのコーディネーター的な役割が中心になる ・市町村枠を超えた組織育成に関する支援関係者との連絡会議(支援体制の強化、ケース検討会等) ・発見からケアへの連携システムを構築し地域全体のケアコーディネーション機能を高めていく役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防部分と地域全体の子育て支援を見据えながら、母子保健事業が円滑に実施できるよう支援していく ・市町村レベルでの関係機関(者)の連絡調整 ・直接的ケアからケアニーズを把握、施策化していくことが必要だ
	<ul style="list-style-type: none"> ・連携方法が体系的に整備されかつ検証されなければ意味を持たない 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する機関、団体、職種が支援方法の合意をし、その支援過程の中で各々が役割を發揮でき良質なケアを提供できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源・福祉サービスの充実・開発
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所保健婦と市町村保健婦との連携は不可欠である ・保健所で対応していける部分を見極め、市町村でできる部分は少しずつでも市町村でできるよう、共に考え働きかけていくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が連携体制を整備しやすいよう、県・郡市医師会等関係機関の協力・理解を得るなど根回しをする ・管内の市町村保健婦が求める技術援助・情報提供をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・より専門的な対応が必要なケースについては保健所や養育機関等と連携し、適切なケアが受けられるようにする ・個々のエリアのみで、個別に活動するのではなく地域的に連携した障害児の療育サービスを提供できるような体制の強化が必要
		<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究 	
研修		<ul style="list-style-type: none"> ・市町村保健婦に対しての指導・研修 ・最新の医療についてタイムリーに研修企画することも必要 ・管内の実状に則した研修や、事例検討等を管内の関係機関と連携して企画・実施すること 	

表 15 本庁におけるアンケート回収状況

	対象数	回収数(率)	有効回答数(率)
総数	117	79 (67.5)	79 (67.5)
都道府県	47	37 (78.7)	37 (78.7)
指定都市	12	9 (75.0)	9 (75.0)
中核市	25	10 (40.0)	10 (40.0)
政令市	10	4 (40.0)	4 (40.0)
特別区	23	11 (47.8)	11 (47.8)
不明		8	8

表 16 小児保健医療に関する研修の企画・実施状況 (N=79)

	数 (%)
実施している	59 (74.7)
実施していない	14 (17.7)
その他	5 (6.3)
無回答	1 (1.3)
計	79 (100.0)

その他：他機関で実施している研修への参加勧奨等

表 17 研修の種別及び実施回数 (過去3年間)

(複数回答)

	数(%)	実施回数	平均実施回数
母子保健に関するもの	51 (86.4)	519	10.2
疾患・障害児のケアに関するもの	43 (72.9)	245	5.7
その他	14 (23.7)	70	5
計	108	834	7.7

その他：歯科保健、環境ホルモン、予防接種等

()内は、研修を実施している59ヶ所に占める割合を計上した

表 18 疾患・障害児のケアに関する研修の実施期間 (N=43)

	数(%)
1～4日	24 (55.8)
5～9日	8 (18.6)
10～14日	3 (7.0)
15～19日	3 (7.0)
20日以上	3 (7.0)
無回答	2 (4.6)
計	43 (100.0)

図8 小児保健医療に関する研修の疾患群別企画・実施状況(本庁)及び受講状況(保健所・市町村)割合

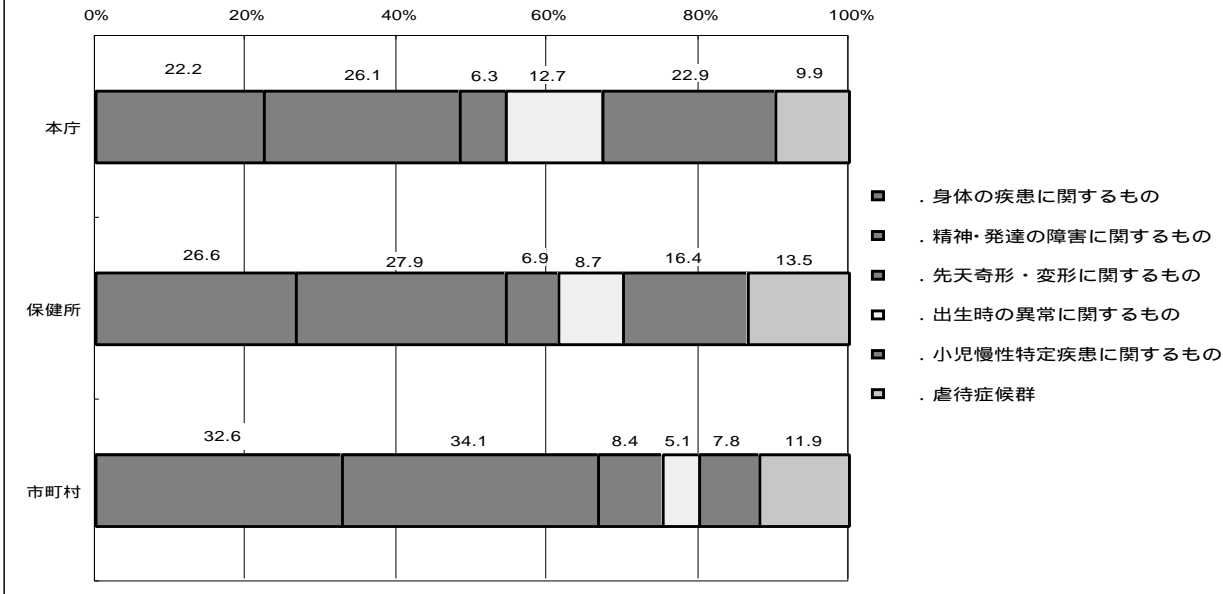


表 19 疾患・障害児のケアを主テーマとした研修における臨床実習の有無及び

実習期間 (N=43)

	数(率)
臨床実習なし	29 (67.4)
臨床実習あり	14 (32.6)
(1日)	2
(2日)	2
(3日)	5
(4日)	2
(5日以上)	3
計	43 (100.0)

参考：専門研修における臨床実習の有無と実習期間

	保健所	市町村
臨床実習なし	227 (73.5)	78 (69.6)
臨床実習あり	82 (26.5)	34 (30.4)
(1日)	17	4
(2日)	8	3
(3日)	13	4
(4日)	7	6
(5日以上)	36	10
	309 (100.0)	112 (100.0)

平成9,10年度調査結果より抜粋

表20 一番最近企画・実施した研修のプログラムについて
 <母子保健について> テーマ数 = 61

	テーマ	実施主体	
本 庁	母子保健と保健婦活動	大阪府	
	障害児療育全般（発達障害のスクリーニング、障害の受容と母子関係、心理判定、理学・作業・言語療法）	兵庫県	
	今どきの親子関係と子育て支援、地域の元気なお母さんたち	神奈川県、県小児保健協会、母子衛生研究会	
	乳幼児保健のよくみられる病気と予防接種、発育発達、事故予防、在日外国人の現状	東京都母子保健サービスセンター	
	母子保健の動向、妊産婦体操の理論、乳幼児の健康と発達	北海道	
	子どもの心の健康づくり、市町村住民のニーズを活かした母子保健事業の進め方	北海道	
保 健 所	最近の育児環境について考える	知多保健所	
	乳幼児検診のスクリーニング基準に関する学習会	石和保健所	
	口腔ケアと摂食援助、健康な子どもを育むために	伊集院保健所	
	お母さんへの援助について	安城保健所	
	自主グループの育成と支援	神戸市保健所	
	母子保健計画と実践	鷹巣保健所	
	子どもの相談の現状と子育て支援について、各団体の活動報告	鷹巣保健所	
	生活習慣病について～クイズに答えて健康づくり～	鷹巣保健所	
	母と子の絆	長崎県南保健所	
	子どもの現状と子育ての課題	長崎県南保健所	
	思春期の子ども達とどうつきあうか、心のふれあう育児、ふたりで子育て親育ち	徳島鴨島保健所	
	子どもの耳と聴力、スキンケア、目と視力、発達検診時の関わり方、乳健の集団指導の工夫	多摩東村山保健所	
	子どもが健やかに育つための栄養士の役割について	多摩東村山保健所	
	子どもの咀嚼の発達と食事について	多摩東村山保健所	
	管内の定住配偶者（外国人妻）の母子保健活動の検討	八戸保健所	
	輝くあおり新時代を担う子どもの健やかな成長を願って	八戸保健所	
	不登校の問題を抱える家族への支援	八戸保健所	
	母子保健計画、療育相談事業の実際、乳幼児の運動発達について、子育て支援のためのコミュニケーション技法	八戸保健所	
	乳幼児健診の実施のための必要な知識・技術について、最近の子どもの口腔保健とう蝕予防	小田原保健所	
	本質の問題を探る育児教室相談の展開、地域で子育てするまちにしたい	小田原保健所	
	母子の心に届く保健指導のあり方、幼児の発育発達の観察ポイント	小田原保健所	
	地域母子保健活動の推進にむけて	香川県	
	健診時の精神発達の見方について、学校保健の現場から（今の子ども達の心）、揺れ動く思春期上手に乗りきろう、みんなで育てる奄美のこども（乳幼児期への働きかけ）	名瀬保健所	
	お母さんの心を理解し支えるために	峰山保健所	
	乳幼児の発達の見方	コザ保健所	
	乳幼児の心身の発達チェックと障害児の早期発見・早期療育・早期対策	浜松西部健康福祉センター	
	子どもの発達について	泉保健所	
	赤ちゃんとお母さんを支える育児支援	市川保健所	
	乳幼児の心理発達の見方、ことばの発達について、育児不安をもつ母親との接し方	山口保健所	
	管内の3歳児健診実施状況から	旭川保健所	
	子育て支援について	旭川保健所	
	思春期のこころの発達、療育圏の地域支援と乳幼児期における運動発達のチェックポイント	伊予三島保健所	
	フォローアップ健診のあり方		
	乳幼児健診のチェックポイントと発達援助	新津保健所	
	母子保健医療に関わる者が連携を深めハイリスク妊産婦の疾病予防をしよう、妊娠・出産・育児を地域ぐるみで支援しよう	新津保健所	
	子どもの力を伸ばす遊びとは（ボーダーラインのこどもへの具体的な関わり）、保健所の母子保健事業について、地域での現状・連携	兵庫柏原保健所	
	1, 6歳児発達心理面におけるスクリーニングの視点、子どもの発達Q&A、1, 6歳児発達心理面における問題点につて	甲府保健所	
	ことばの発達、子ども相談センター・療育センター・保育園概況紹介、心のケア子どもの相談の実際、子育てはそれでいいよ大丈夫	新潟市保健所	
	乳幼児の聴力検査とことばの相談の受け方、新生児・乳児の観察ポイントと異常兆候について	埼玉朝霧保健所	
	母子保健の動向ならびに母子保健補助金について、乳幼児健診のあり方について	山形保健所	
	診療からみた子ども達、母子保健マニュアルの検討	足助保健所	
	新生児・乳児期における発達・発育の特徴と保健指導、幼児期の精神発達の発達と育児支援について、母子保健事業の現状	豊岡保健所	
	町	発達テストの実際と結果の読み方、スクリーニング実施の評価及び対応	若宮町
		乳幼児の発達チェックとフォローアップ体制について	若宮町

対象	形式	県子ども病院・小児療育センターの関与
市町村保健婦	講演会、実践報告	
地区活動をしている保健婦で経験3年以上	講演会、事例検討、実技、病院実習、施設見学	県立のじぎく療育センター
母子保健指導者	講演会、シンポジウム	
保健所・市町村保健婦、都立病院助産婦・看護婦、保育園関係者		
市町村保健婦、助産婦	講演会、体験実習	
保健所・市町村保健婦	講演会、シンポジウム	
管内保健婦	講演会	
管内保健婦	講演会、グループワーク	
母子保健関係者	講演会、体験実習	
地域保健関係者	講演会、グループワーク	
保健所職員	講演会	
管内保健婦、母子保健担当者等	講演会、検討	
子育て支援に関わる者（民生委員、母子保健推進委員、愛育班、ボランティアグループ、保健衛生関係者）	講演会、活動報告	
思春期の男女（中学1年生）	講演会	
母子保健推進員、母子保健事業に関わる者	講演会	
市町村担当者、母子保健推進員、幼稚園・保育所関係者	講演会	
一般、新米パパママ	講演会、体験実習	
乳幼児健診に関わる者	講演会	
栄養士	講演会	
保健福祉関係者	講演会	
母子保健関係者	情報交換	
保健・医療・福祉関係者	情報交換、検討	
新人保健婦	講演会	
医師会、歯科医師会	講演会	
保健・医療・福祉関連者	講演会、パネルディスカッション	
保健・医療・福祉関連職員	講演会	
管内保健婦	討議	
母子保健関係者等	講演会	
保健婦等保健関係者	講演会	
管内保健婦	講演会	
西部保健福祉センター保健婦・心理判定員、乳幼児健診に関わる者、医療機関・保健福祉関係の担当者	講演会	
管内保健婦	講演会	
新生児・妊産婦訪問指導者	講演会	
管内保健婦	講演会	
管内保健婦、医療機関保健婦	報告、グループワーク	
管内保健婦、医療機関保健婦	実践報告、グループワーク	
母子保健関係者	講演会	
乳幼児健診に関わる者	講演会	
管内保健婦、助産婦、看護婦、母子保健推進員	実践報告、グループワーク	
管内保健婦等母子保健関係者	講演会、グループワーク	
保育所・幼稚園関係者、母子保健関係者	講演会、事例紹介	
母子発達相談員、一般（講演のみ）	講演会、施設見学、グループワーク	
母子保健関係者等	講演会	大宮小児保健センター、県小児医療センター
母子保健関係者	講演会	
管内保健婦	講演会	
母子保健関係者	講演会、グループワーク、情報交換	県立のじぎく療育センター
	講演会、演習、グループワーク	
	講演会	

表2 1 一番最近企画・実施した研修のプログラムについて

<小児保健医療について> テーマ数 = 5 5

	テーマ	実施主体	
本 庁	アレルギー疾患と保健指導、母乳をめぐる話題母乳中のダイオキシン類調査より	岩手県	
	虐待事例の関わりを通して 発達障害への対応、児童虐待、アトピー性皮膚炎のケア、SIDSの現状と家族への援助	群馬県、県立小児医療センター 東京都母子保健サービスセンター	
	小児保健を中心に最新の臨床看護の知識と技術を学ぶ、 ダウン症児の地域との連携について	神奈川県	
	未熟児の医療の現状、未熟児の歯・リハビリテーション、慢性疾患児のポジショニング・ 呼吸のリハビリ・摂食指導、障害児の医療福祉教育	神奈川県	
	障害・難病児の地域ケアの評価と新たな課題、未熟児の早期介入と長期予後、乳幼児健診 での疾病の早期発見と保健指導、難病障害児のケアシステム構築（学校保健との連携）	大阪府	
	小児慢性特定疾患治療研究事業の現状	大阪府	
	小児悪性新生物・小児血液難病の病態と治療について	滋賀県	
	SIDSの予防と対応について	香川県	
	小児期のでんかん、発作時の対応と合併症、障害児の福祉と支援について、小児の眼疾患 観察のポイントと治療・指導、発達の気になる子の観察ポイントと親への働きかけについて	熊本県、母子衛生研究会	
	児童虐待について、SIDSの現状と対策	熊本県	
	難病療養者のQOLを考える、保健所における難病事業の取り組み、 小児慢性特定疾患への支援、子どもの成長障害について	熊本県	
	小児慢性特定疾患について、循環器疾患・神経内科疾患・慢性腎疾患について 在宅療養児のリハビリについて	熊本県	
	未熟児の地域でのフォローについて、未熟児のケアの実際、医療と保健の連携の実際	熊本県	
	保 健 所	早期治療について、保健・医療・福祉の役割を考える 母子通園センターの取り組みと課題について	旭川保健所
		児童虐待の理解と家族関係調整	旭川保健所
		小児糖尿病との上手な付き合い方	弘前保健所
		口唇・口蓋裂の治療と療育について、地域で支えられるためのネットワーク作りについて	弘前保健所
		未熟児養育事業の推進について、長期療養児を支える地域ケアシステム 小児期から生活習慣病を予防する、小児虐待の理解と予防	八戸保健所
		乳幼児の聴力障害と言語発達	野田保健所
		発達遅滞児の支援について	野田保健所
神経系疾患児の支援について		野田保健所	
川崎病の経過と過ごし方		多摩川保健所	
喘息教室		多摩川保健所	
虐待対応の現状と課題、虐待と心的外傷		多摩川保健所	
思春期の摂食障害について		多摩川保健所	
（障害児の）将来の自立をめざした親の関わり方		多摩川保健所	
口から上手に食べよう		多摩川保健所	
虐待の発見と対応		多摩東村山保健所	
子どもの事故防止		多摩東村山保健所	
小児肥満予防教室最近の子育ての傾向について		伊豆保健所	
虐待の早期発見と初期対応		静岡市保健所	
子どもの虐待（それぞれの機関の連携について）		安城保健所	
アレルギー疾患を有する乳幼児とのかかわりについて、乳幼児虐待の現状		豊岡保健所	
聴覚健診アンケートと関連する耳鼻疾患について		神戸市保健所	
低身長の原因と治療		佐賀中部保健所	
アトピー性皮膚炎について、住居環境、小児喘息について		松山中央保健所	
疾患についての、施設紹介・リハビリについて		観音寺保健所	
障害児保育の推進（多動の子どもの理解と関わり方）		徳島鴨島保健所	
アレルギー疾患の治療の実際・現状、虐待の最近の動向と援助、子どもの心身症、結核 小児肥満		松江保健所	
二分脊椎症とは、リハビリ、泌尿器管理		松江保健所	
喘息・アトピー性皮膚炎学習会		松江保健所	
新生児医療の進歩について		松江保健所	
低体重児出生予防および乳児死亡を減少させるための対策について		日下部保健所	
処遇検討会、家族のつどい		日下部保健所	
子どもの精神保健と医療（注意欠損・多動性障害ADHD）を中心に発達相談・保健婦活動 から見えること、療育問題の支援について保健機関の役割を考える（虐待予防研修会）		峰山保健所	
心身障害児の発達の学習・事例検討		伊集院保健所	
ハイリスク母子事例検討会		鹿児島出水保健所	
障害児の親の心理・診断とアプローチ・ADL指導・言葉の発達		長崎県南保健所	
発達障害時の診断とアプローチ		長崎県南保健所	
心身障害児の学習会		伊集院保健所 串木野市	
障害受容と発達に応じた接し方		茨木保健所	
口蓋裂の病態と治療、ことばを育てる関わりについて、 乳幼児突然死症候群について		宮崎県中央保健所 コザ保健所	
政 令 市 等		多胎児を産み育てる家庭への援助	金沢市
	児童虐待、SIDS及び乳幼児の事故防止について、子育て支援を考える、 精神発達障害のある児への援助、	大阪市	
	子どもの虐待について、早期発見と対応・機関の連携、法的対応、援助	吹田子ども家庭センター、 茨木市保健医療課、茨木保健所	
	運動発達の遅れのある乳幼児への個別支援	若宮町	

対象	形式	県子ども病院・小児療育センターの関与
管内保健婦、医師、看護婦、助産婦、 児童福祉関係者	講演会	
管内保健婦	講演会、事例検討	
保健所・市町村保健婦、都立病院助産婦・看護婦、 保育園関係者		
県保健福祉事務所・市町村保健婦で経験3年以上、 母子保健関係者（講演のみ）	講演会、臨床実習	県立こども医療センター
県保健福祉事務所・政令市の保健婦、 歯科保健担当、栄養士等母子保健関係者	講演会、施設見学、 情報交換	
保健所・市町村保健婦	講義会、実践報告、 シンポジウム	
保健所保健婦	講演会	府立母子保健総合医療センター
乳児の保健医療保育に関わる者	講演会、家族会の体験発表	
管内保健婦	講演会	
母子保健関係者	講演会	
保健所、福祉事務所、市町村で難病関係に携わる者	講演会、実践報告、 グループ討議	
小児慢性特定疾患療育指導担当者	講演、臨床実習	
未熟児訪問指導担当者	講演会	
管内保健婦、保健・福祉担当者、関係機関者	講演会、実践報告	
管内保健婦、医療機関保健婦	講演会、事例検討	
管内保健婦、栄養士小児DM児の家族	講演会、家族交流会	
管内保健婦、医師、看護婦、療育関係者 学校関係者	講演会、討議	
母子保健関係者	講演会	
管内保健婦	講演会、事例検討	
管内保健婦	講演会、事例検討	
管内保健婦	講演会、事例検討	
川崎病の子を持つ親、保育や療育に関わる者	講演会	
幼児～小学生位の喘息の子と親	講演会、体験実習	
子どもの保育に関わる者		
母子保健福祉関係者	講演会	
一般	講演会	
心身に障害のある乳幼児の家族	講演会、施設見学	
摂食障害のある幼児と親	講演会、個別相談	
保健福祉担当者	講演会	
保健福祉担当者	講演会	
肥満や生活習慣に問題のある幼児と親	講演会、個別相談	
医療・保健・福祉・教育等関係者	講演会	県立こども病院
地域保健関係者	講演会、討議	
母子保健関係者	講演会、事例検討 情報交換	
保健所職員	講演会	
アレルギー児を指導する者	講演会	
母子保健に関わる専門職	講演会、事例検討	
管内保健福祉サービス関係者	講演会、グループワーク	
管内保健婦、学校関係者、関係者	講演会、事例検討	
一般	講演会	
医療関係者、一般	講演会	
管内保健婦、医師、助産婦、母子保健担当者	講演会、検討	
未熟児・小慢疾患受給者、 障害児・問題のある児等	処遇検討、交流会	
保健婦等保健関係者、母子に関わる関係者	講演会	
管内保健婦、保育士、幼稚園教諭	講演会、事例検討	
保健福祉サービス関係者	事例検討	
管内保健婦、保育士、幼稚園教諭	講演会	
管内保健婦、医師、看護婦	講演会	
発達訓練を受けている児と親 小児慢性特定疾患受給者と親	講演会、個別相談相談	
心身障害児の親	講演会	
音声言語・咀嚼障害児と親	講演会、座談会	
管内保健婦	講演会	
多胎児家庭	グループワーク	
管内保健婦	講演会	
保健・医療・福祉関係者	講演	
	講演会、演習	

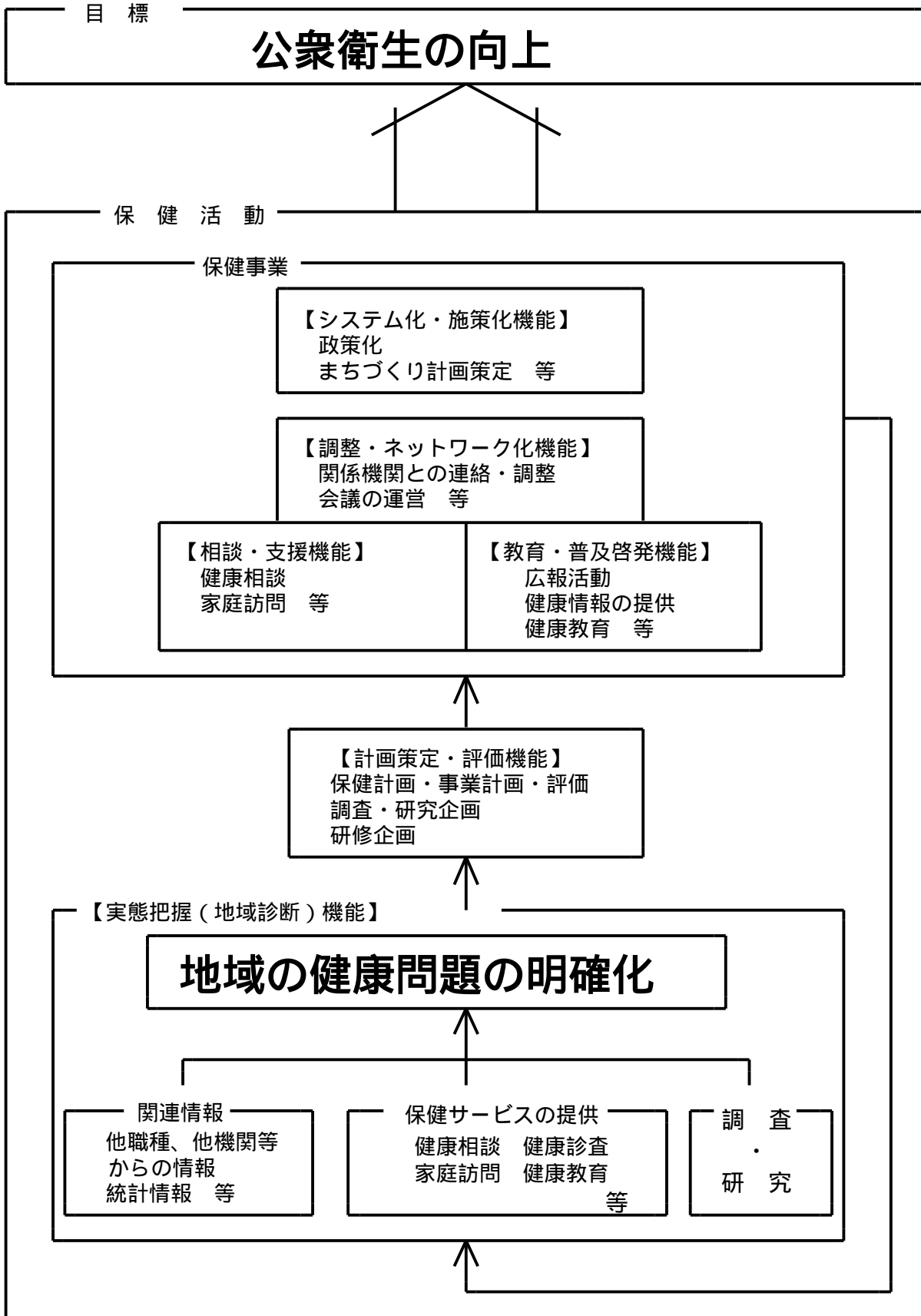
表22 一番最近企画・実施した研修のプログラムについて

<混合型>テーマ数 = 10

	テーマ	実施主体
本 庁 等	乳幼児健診総論、成長発達の見方、遺伝相談、自閉症児、子どもの歯、 母子保健地区組織育成等母子保健全般	埼玉県、 県立小児医療センター
	子どもの精神的な問題と対応、未熟児の発達発達と地域におけるケア、 保健所での発達相談等の現状	埼玉県
	育児の原点・母と子のきずな、小児固定がんの診断と治療の進歩、乳幼児の食生活	母子衛生研究会
	SIDSから子どもを守るために、いまこそ食育を食は心のえいよう	厚生省、福岡県
	母子保健対策の推進について、母親の生育歴と児童虐待、育児不安と背景	北海道
	母乳と免疫、母乳と環境ホルモン、SIDSの理解と対応、乳幼児健診の実際	北海道
	SIDSの理解と対応、子どもの心を育てる食事のために	北海道
保 健 所	免疫・アレルギー疾患について、地域と医療機関との効果的な連携について、 母子保健の課題について	釧路保健所
	乳児の運動発達、SIDSを防ぐために、注意欠損多動性障害児との関わりについて	福岡京築保健所
	県の母子保健の現状、子どもの低身長診断と治療、 幼児の身長体重曲線を利用した肥満度判定	青森保健所

対象	形式	県子ども病院・小児療育センターの関与
母子保健関係者	講演会	県立小児医療センター
保健所母子保健担当者、 市町村母子保健担当者（一部のみ）	講演会、グループワーク	
医療関係、行政の母子保健関係者	講演会	
一般	講演会	
保健所・市町村保健婦、学校関係者	講演会	神奈川県立こども医療センター
保健所・市町村保健婦、助産婦、看護婦、保育士等	講演会	
保健所・市町村保健婦、助産婦、看護婦、保育士、一般	講演会、個別相談	
管内保健婦	講演会、討議、懇談	
母子保健関係者	講演会	
母子保健指導者	講演会	

図9 機能面からみたこれからの保健婦活動



(湯澤布矢子他「これからの行政組織における保健婦活動のあり方に関する研究」平成8年度厚生科学研究報告書より)